

# 平成 28 年度中小企業金融実態調査結果概要

平成 28 年 8 月 17 日  
富山県商工会連合会

## I. 調査目的

県下商工会地区における小規模企業等の経営概況や金融に関する動向等を把握し、中小企業金融の円滑化に資するための基礎資料を得ることを目的として調査を実施した。

## II. 調査対象および方法

商工会地区の中小企業（特に小規模事業者）のうち、1, 160 企業を無作為抽出し、商工会の経営指導員の面接により調査を行った。

## III. 調査時期および実施期間

調査書記入時点 平成 28 年 7 月 1 日 現在  
調査実施期間 平成 28 年 7 月 1 日～7 月 15 日

## IV. 回答状況

調査対象企業数 1, 160 社  
回答企業数 1, 110 社（回収率 95.7%）

## V. 調査結果の概要

ここ 1 年間の売上高は、減少企業が 56.2%で増加企業の 42.9%を上回った。採算面でも赤字企業が 22.3%（前回は 1.7 ポイント増加）、黒字企業が 31.7%（前回は 4.6 ポイント減少）で、厳しい結果だった。今後の 10～12 月の資金繰り見通しは「変わらない」が 45%だが、「楽になる」の 2.9%に対して、「大変苦しくなる」「苦しくなる」の合計は 30.7%で、先行は慎重な見通しが多い。

借入計画では、「業況の先行き見通し難」が 70.1%となり、「計画なし」が 81.4%、「設備投資計画なし」が 80.8%となり、資金需要は高くない。

借入金利は「2%未満」が 77.8%(前回は 7.9%増)となり、低下傾向が続いている。マイナス金利政策以降の金融機関の姿勢では、「変わらない」が 81.2%、「融資に積極的」が 15.9%となった。

借入満足度では 96.4%が満足としている一方、借入返済の条件変更では「難しい」が 5.7 ポイント増加の 22.7%となり、経営不振先の改善が求められている。

最近の諸制度のうち、後継者対策では「後継者がいる」は 29.4%だが、「現在検討している」は 14.9%に止まっており、今後の対策増加が見込まれる。TPP では、「詳しく知りたい」「海外展開を検討」と答えた企業が 53 先だった。

項目別の回答は次の通りである。

今回の特徴点（前回 27 年 7 月調査時点との比較）

## 1. 企業の営業の状況について

- (1) 年間売上高は、売上減少企業が 56.2%、売上増加企業が 42.9%で、減少企業が 13.3%上回っている。採算状況では、赤字企業は 1.7 ポイント増加の 22.3%に対し、黒字企業が 4.6 ポイント減少の 31.7%で、厳しい状況である。
- (2) 今後の売上高予想でも、「減少する」と回答した割合は 61.3%で、増加すると回答した割合 37.6%を上回り、慎重な見方が多い。業種別では小売業、運輸業、サービス業、卸売業の順で減少予想が高くなっている。
- (3) 10～12月の資金繰り予想では、「変わらない」が 45%だが、「大変苦しくなる」と、「苦しくなる」の合計は 30.7%で、「楽になる」の 2.9%を大きく上回った。苦しくなる業種では、卸売業、小売業が多い。苦しくなる要因としての複数回答では、「売上高予定額未達」と「利益が予定に達しない」の割合が圧倒的に高い。「経費が増大している」は 16.5%で 8.2 ポイント減少した。
- (4) ここ 1 年間に、元請等との取引条件に変化があると回答した企業は 4.2 ポイント減少の 14.7%で、「あまり変化はなかった」が 82.9%(5 ポイント増)を占めた。
- (5) 消費税の採算への影響は「かなり影響がある」と「少し影響がある」の合計が 74.8%で「ほとんど影響がない」の 23.7%を大きく上回る状況が続いている。

## 2. 金融機関との取引及び借入状況について

- (1) 昨年 12 月末と比べ、借入額では「減った」が 47.1%で「増えた」の 27.6%を上回り減少傾向が続いている。「借入なし」が 21.4%となり、前年までの 5 年連続の増加から、減少に転じた。
- (2) 最近 6 ヶ月間の借入申し込みを「した」は 38.9%となった。  
現在の借入金利については、「借入金利 2%未満」の層は、7.9 ポイント増加の 77.8%となった。3%超は 0.8 ポイント減少し 1.2%となり、借入金利の低下傾向は続いている。借入の満足度は、満足と回答した企業の割合は 96.4%で前回対比 2 ポイント増加し、謝絶の回答はなかった。
- (3) マイナス金利政策による金融機関の姿勢の変化では、「変わらない」が 81.2%で大きな変化はないが、「融資に積極的」が 15.9%で「消極的」の 1.9%を大きく上回った。

- (4) 「貸し渋り」の有無は、「ある」が1.7ポイント増加の8.4%で前年まで6年連続で低下していたが反転した。「貸し渋り」の複数回答の内容は「追加融資不可」「審査機関の長期化・審査資料の増加」「保証協会の付保」の順に多い。
- (5) 借りにくい、借りられない理由では、「借入残高が多い」「業績が思わしくない」の2項目が引き続き主な要因となっている。
- (6) 借入返済の条件変更に対しては、「希望する」企業が2.6ポイント減少の10.3%で、希望する条件変更は「元金返済の一時据置（猶予）」「返済期間の延長」「長期資金への切替」の順となった。条件変更の難易度では、「容易である」と「交渉次第で何とかなる」で2.2ポイント減少の70.4%となる。「難しい」は5.7ポイント増加の22.7%で、難易度は3年ぶりに上がった。
- (7) 今後の借入計画(1年間)では、「ある」と回答した企業は1.0ポイント減少(16.8%)し、「ない」と回答した企業は0.6ポイント増加(81.4%)した。うち設備資金では、「ない」が2.4ポイント増加の80.8%の高水準となった。
- (8) 借入時の重視事項では、「金利」「条件」の直接条件が重視されているが、「日頃のつきあい」や「経営上の相談が得られる」の間接条件も高水準である。
- (9) 借入を考える場合の懸念材料においては、「業況の先行見通し難」が13.1ポイント増加の70.1%となった。「借入後の返済力」とあわせ2項目が高水準であるほか「金融機関の対応」が16.0%となっている。

### 3. 融資制度について

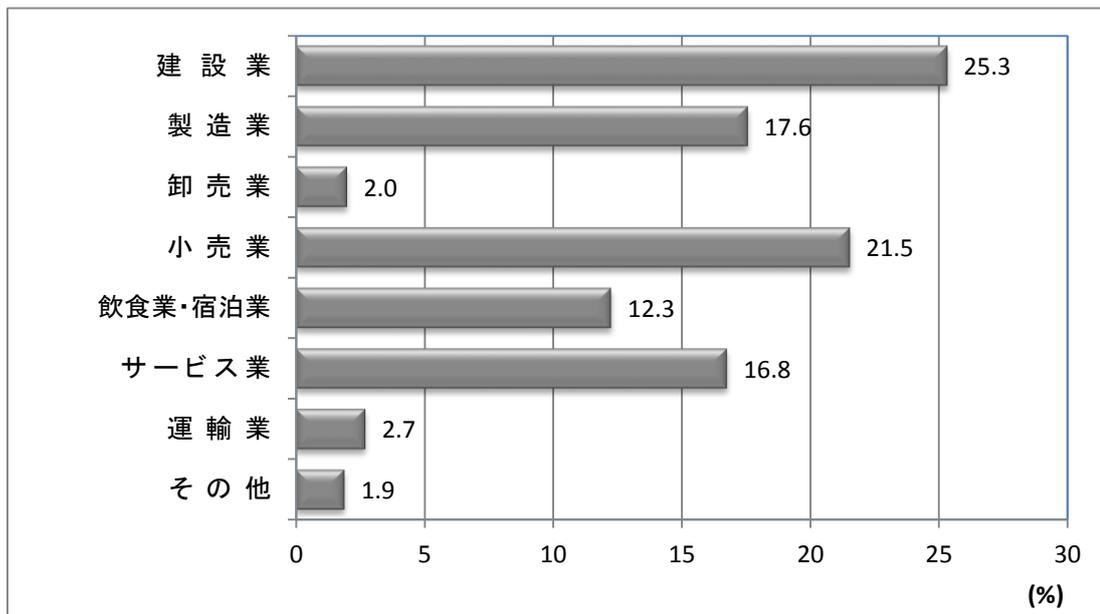
- (1) 国・県・市町村の融資制度の過去1年以内の利用状況は、前回調査と比べると「利用がある」は31.4%、「利用がない」は2ポイント増加の67.3%となった。融資制度について、現状の公定歩合に連動した金利の導入、設備に対する助成金の増額、業種別特質に合わせた制度の充実を求める意見があった。
- (2) 国や県、市町村の融資制度は、「経営の役に立っている」と回答した企業は97.1%を占めた。「利用しなかった理由」として、「利用する必要がなかった」が77%で最も高い割合である。
- (3) マル経融資は「(大変)役に立っている」が51%と高水準だが、「知らなかった」は24.3%あった。
- (4) 信用保証協会の保証利用は前回比1.7ポイント減少の23.3%だった。「円滑に融資が受けられた」と「少し難しかったが受けられた」の合計は97.3%の高い水準だった。
- (5) 保証協会の融資態度の変化については、「変わらない」は83%、「審査が厳しくなった」が1.6%ポイント減少の3.9%となり、「意見交換」「対応が丁寧」も合計で2.6ポイント増加の9.6%となった。

#### 4. 最近の諸制度について

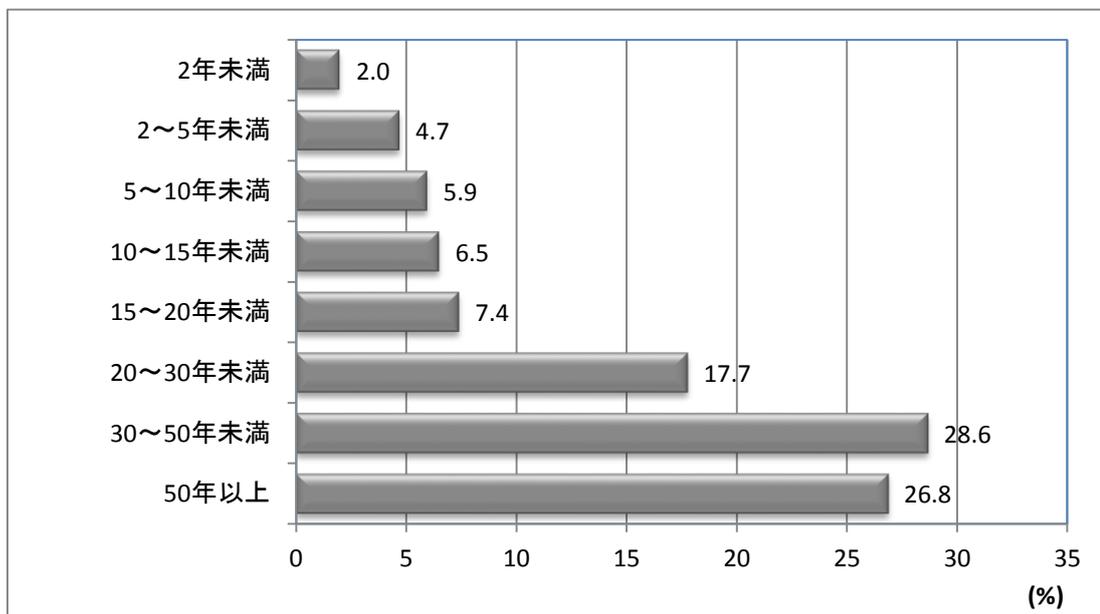
- (1) ビジネス創造支援事業の専門家派遣では「相談したい」「説明を受けたい」が2.2ポイント増加の15.7%、「関心はない」は80%で1.9ポイント減少した。
- (2) 金融円滑化法終了後に「貸付条件の変更や新規融資」を申し込んだのは全体の16.8%だったが、審査については「借りやすくなった」「変わらない」「厳しくなったが変更や融資を受けられた」の合計は88.8%で前回比10.8ポイント減少した。
- (3) 後継者対策では「後継者はいる」は29.4%だが、「現在、検討している」は14.9%に止まり、「いずれ考えるが急がない」は48.6%の高水準となっている。
- (4) 最近の補助金制度については、「すでに活用している」「今後、申請予定」の合計が21.2%となった。「説明を受けたい」は、13.4%だった。
- (5) TPPは、「詳しく知りたい」「海外展開を検討したい」は53先(4.8%)だった。「常識程度に知りたい」「現在、関心はない」は合計で92.7%だった。準備はこれからの段階である。

## 1 回答企業の概要

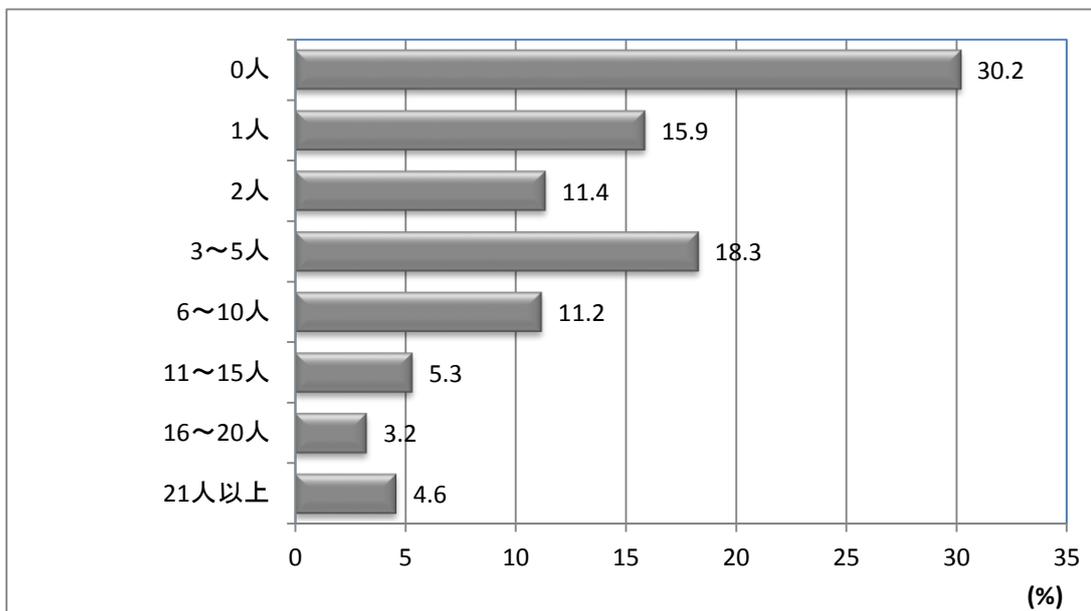
### (1) 業種



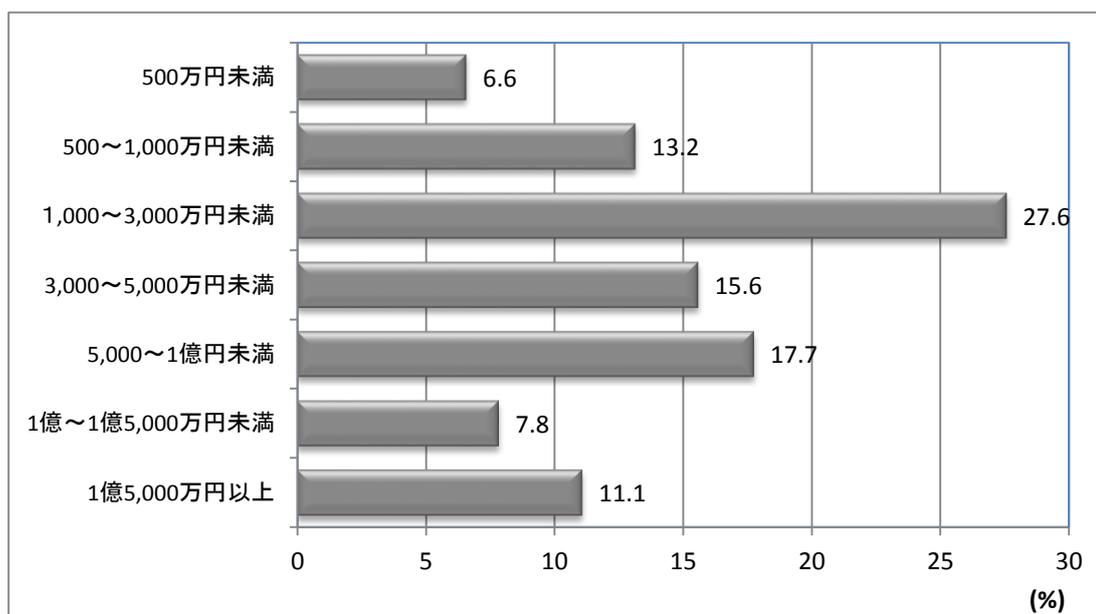
### (2) 創業してから何年



### (3) 常用従業員



### (4) 年間売上高

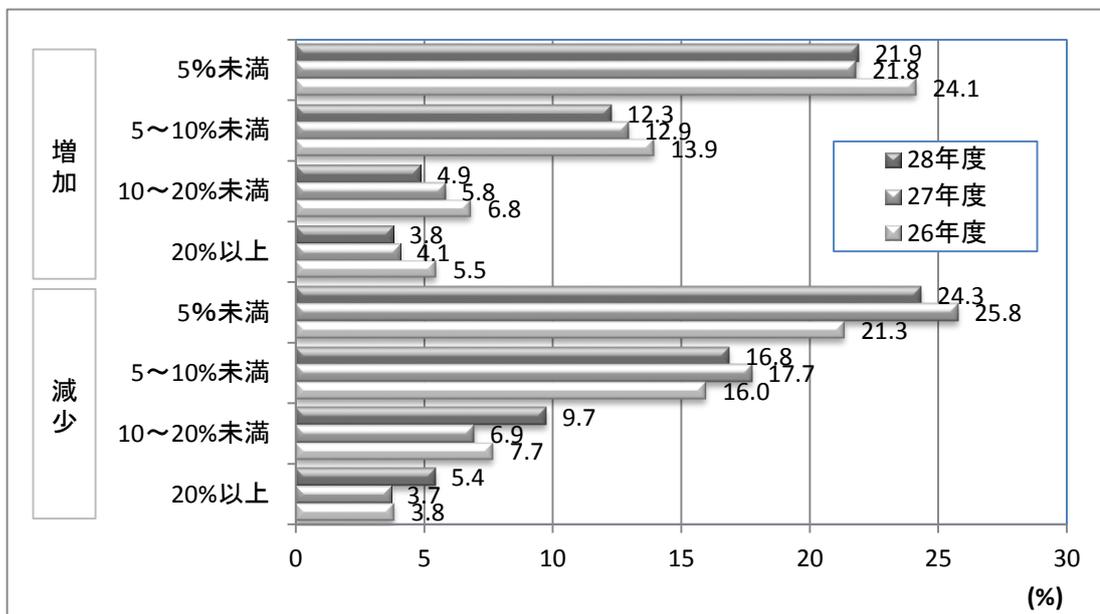


## 2 営業の状況

### (1) 年間売上高の増減率（対前回比）

年間売上減少は全体で 56.2%となり前回調査に比べ 2.1 ポイント増加した。業種別にみると、小売業、卸売業、建設業の順で減少率が高い。従業員規模では、「15 人以下」の小規模企業の減少率が高くなっている。

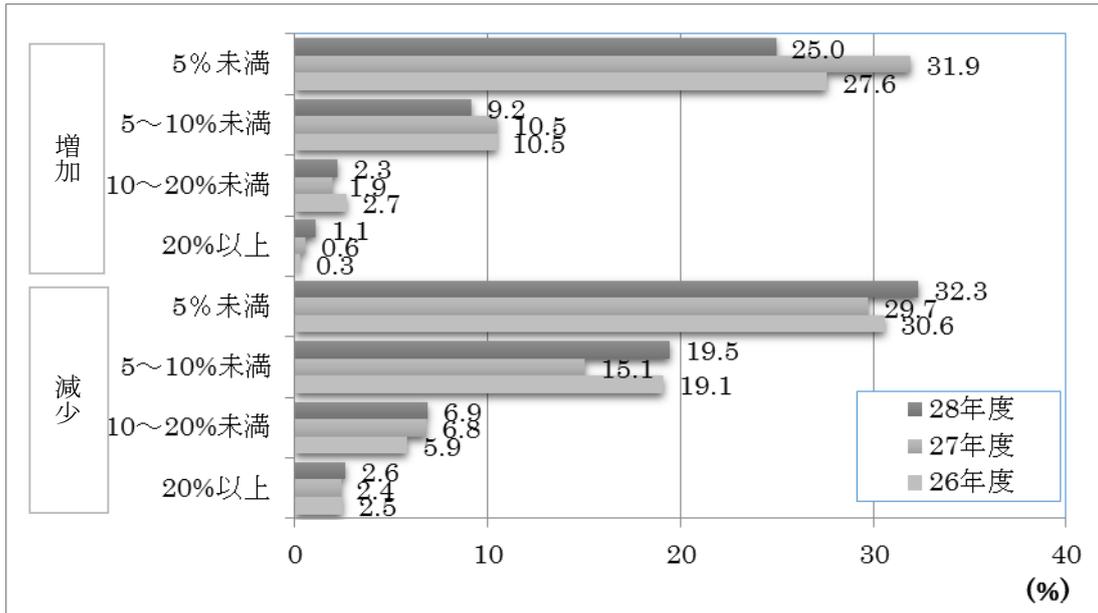
売上増加企業は、前回調査より 1.7 ポイント減少し全体で 42.9%となり、減少企業を下回った。業種別に見ると、飲食・宿泊業のみ「増加」が「減少」を 2.9%上回った。従業員規模別では、「16～20 人」の 61%、「21 人以上」の 53%が増加と回答。



### (2) 今後の売上高予想

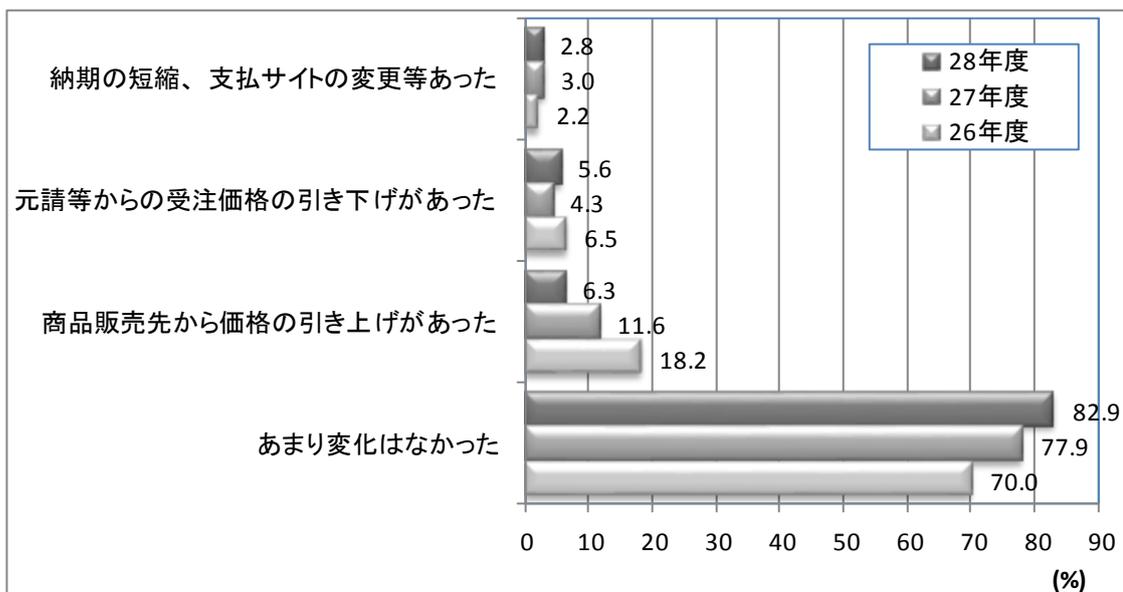
今後の景気の先行きを踏まえた売上高予想の質問に対して、減少すると回答した割合は全体の 61.3%占め前回より 7.3%増加した。

業種別に見ると全業種で減少が増加を上回り、小売業で 75.3%、運輸業で 66.6%、サービス業で 62.9%、卸売業 59.1%の順で減少の割合が高い。売上高が増加すると回答した割合は全体の 37.6%で前回比 7.3 ポイント減少した。従業員規模別では、「21 人以上」の 47%増加予想が最も高かった。



### (3) 取引条件の変更状況

ここ1年間の商品販売先、工事元請先、製造発注元等との取引条件の変更状況では82.9%があまり変化はなかったと回答。一方で14.7%の企業がなんらかの取引条件の変更を強いられていると回答、前回比較では4.2ポイント減少した。業種別では建設業、卸売業、運輸業の順で条件変更があった。



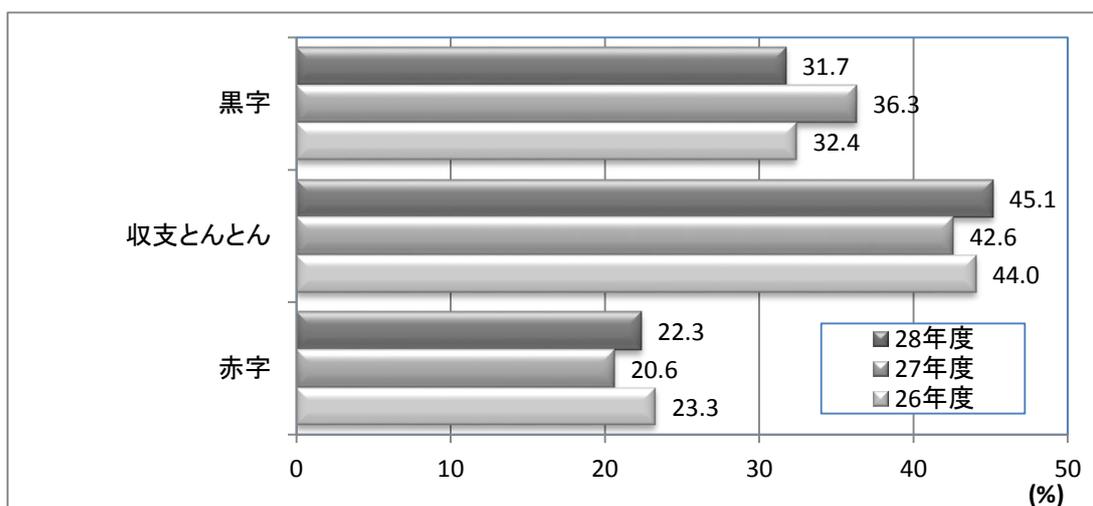
#### (4) 採算の状況

##### ア、現在の採算状況

黒字と回答した割合は 31.7%と前回から 4.6 ポイント減少した。赤字と回答した割合は 22.3%と前回から 1.7 ポイント増加し、収支とんとは前回より 2.5 ポイント増加した。

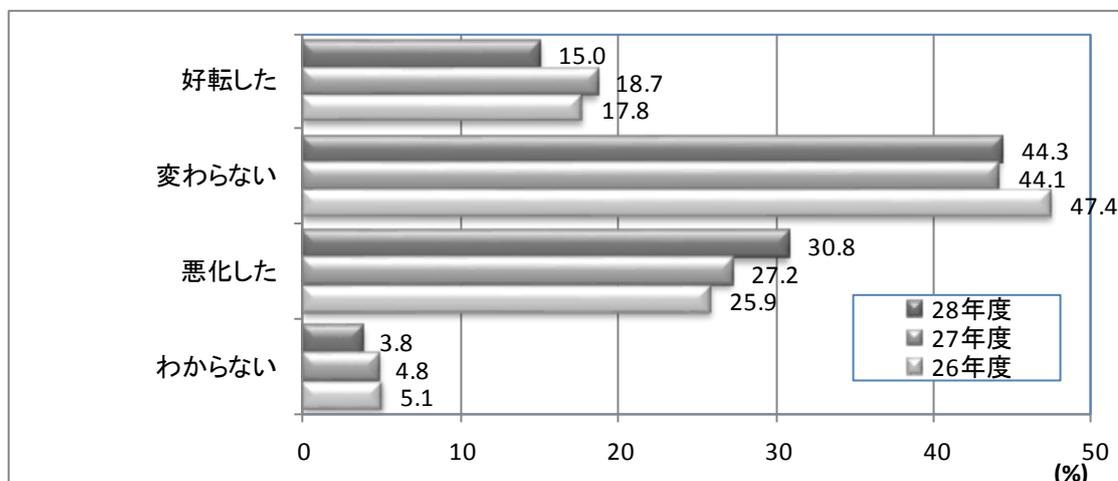
黒字企業を業種別にみると建設業で高く、赤字企業では小売業、卸売業、運輸業の順になっている。

また従業員別での黒字企業は、「21 人以上」「16~20 人」の順で比率が高く、比較的従業員の多い規模で黒字企業の割合が高い。



##### イ、採算状況（対前回比較）

採算状況を前回と比較すると、「好転した」が 3.7 ポイント減少した。「悪化した」が 3.6 ポイント増加した。変わらないは 0.2 ポイント増加した。業種別では、小売業、建設業の「悪化した」比率が高くなっている。

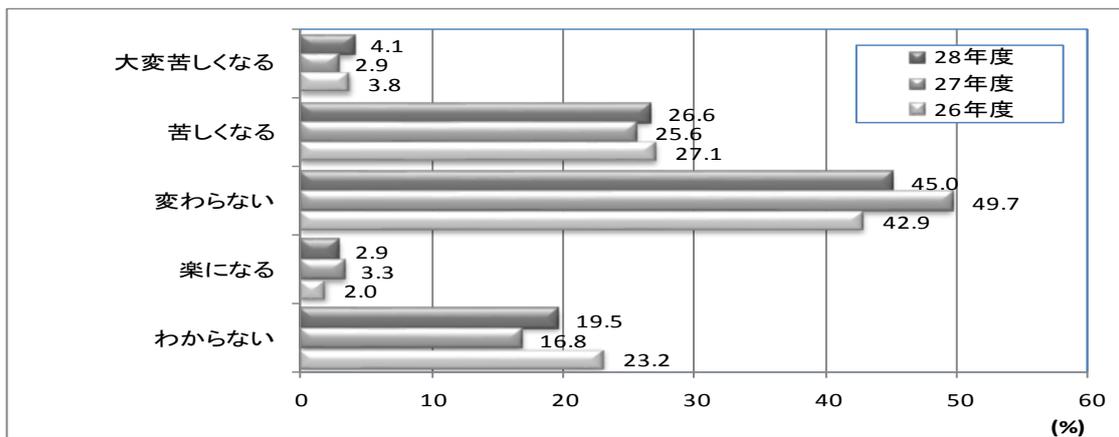


(5) 資金繰り状況

ア、今年10～12月の資金繰り予想

「大変苦しくなる」と「苦しくなる」の合計では、前回より2.2ポイント増加し30.7%となる。「変わらない」が4.7ポイント減少して45%。「楽になる」は前回より0.4ポイント減少の2.9%にとどまった。

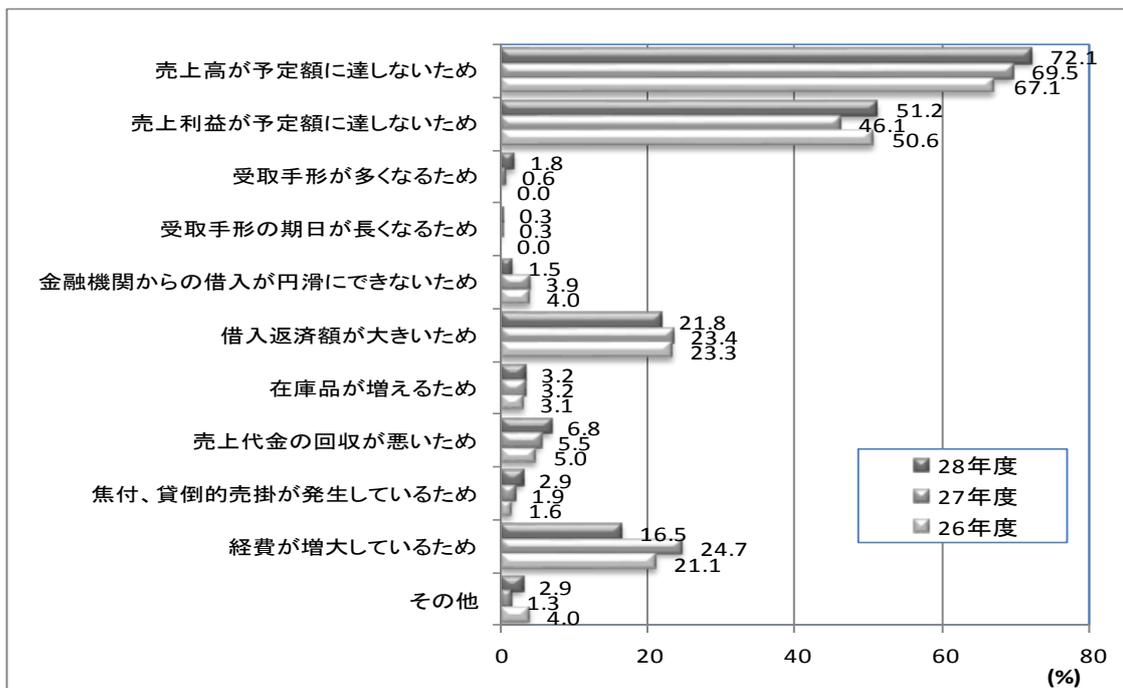
「大変苦しくなる」「苦しくなる」を業種別でみると、卸売業、小売業の順で高い。



イ、資金繰りが苦しくなる原因（2つ以内で回答）

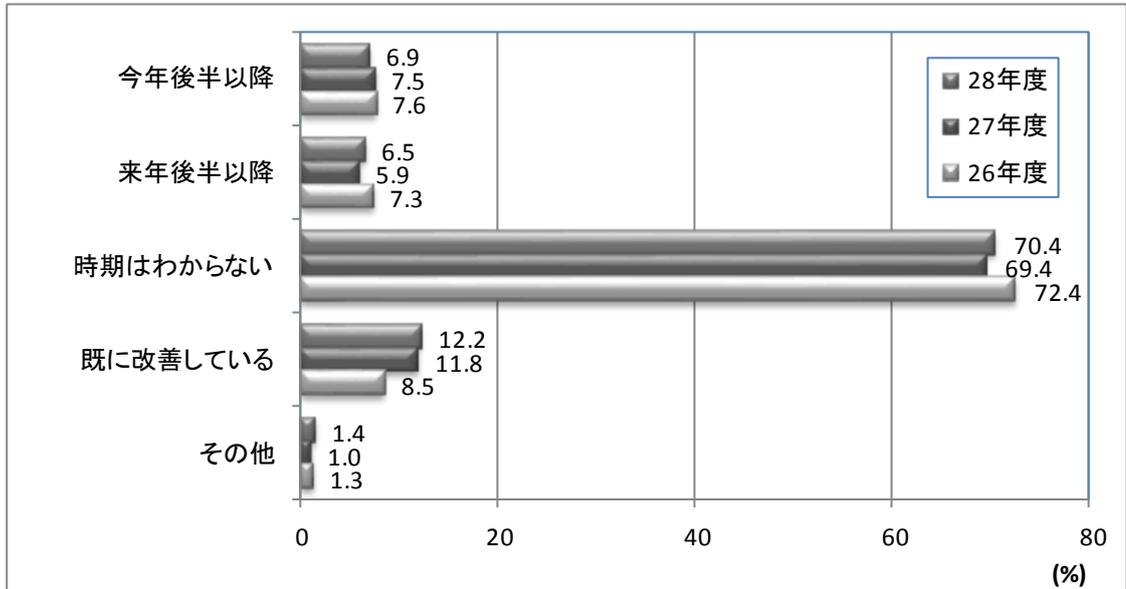
「苦しくなる」理由は、「売上が予定額に達しない」と「売上利益が予定額に達しない」の割合が圧倒的に高い。「経費の増大」が16.5%で8.2ポイント減少した。

「借入返済額が大きい」は21.3%で1.6ポイント減少した。その他の原因では為替相場の変動があげられている。



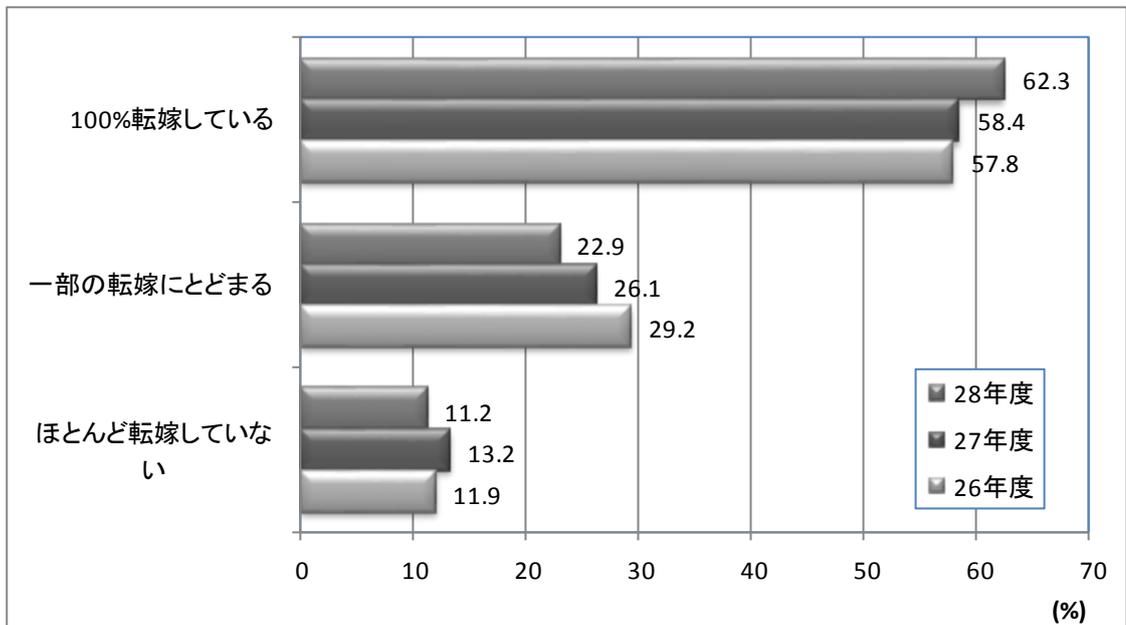
### ウ、資金繰りが改善する時期

改善する時期は、「時期はわからない」が70.4%を占めた。業種別では、ほぼ全業種で改善する時期はわからないと回答している。



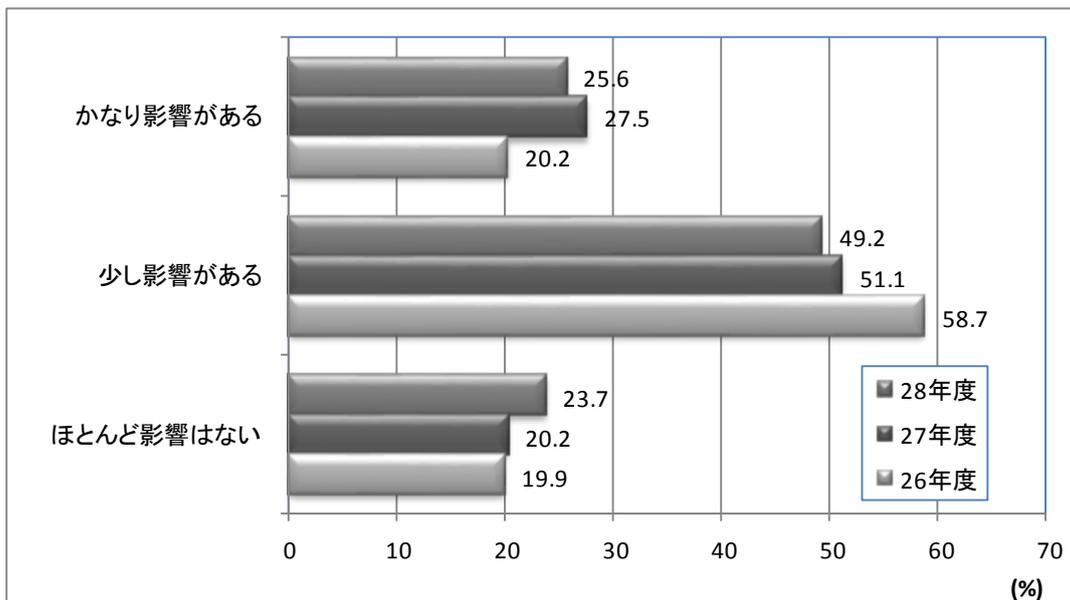
### エ、消費税増税の転嫁の状況について

「一部の転嫁にとどまる」と「ほとんど転嫁していない」の合計は34.1%と5.2ポイント減少した。業種では飲食・宿泊業が多い。100%転嫁企業の業種別では、建設業、運輸業が多い。従業員規模別では、「11~15人」「16~20人」の比較的規模の大きなクラスの転嫁率が高い。



### オ、消費税増税の採算への影響について

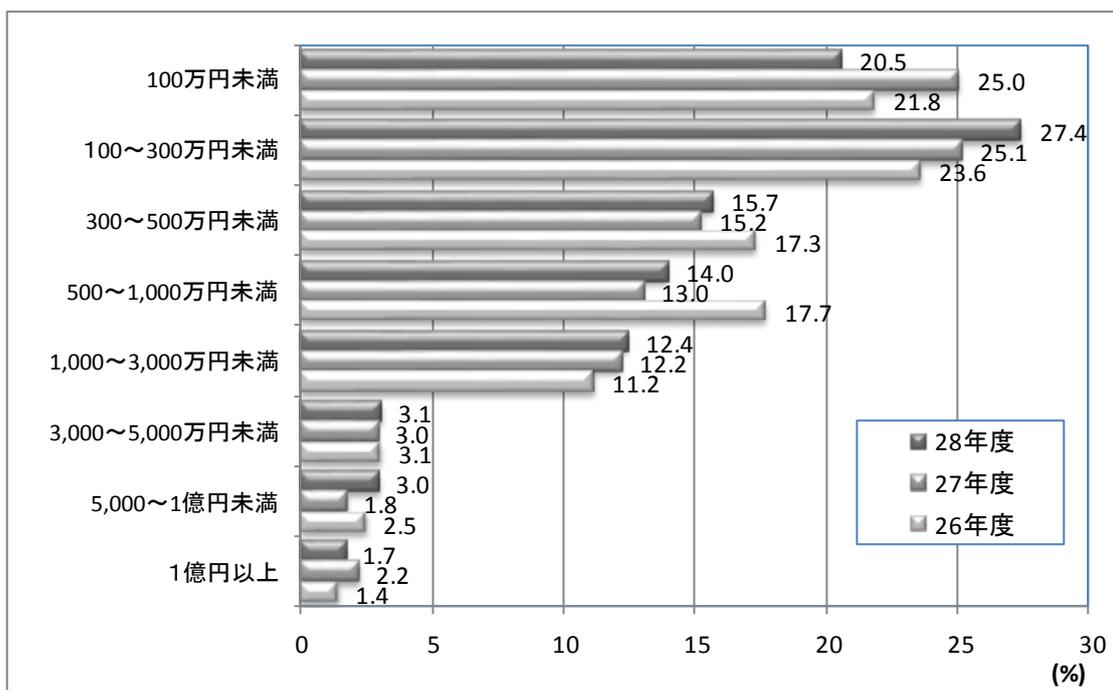
「かなり影響がある」と「少し影響がある」の合計は74.8%で、3.8ポイント減少した。「ほとんど影響はない」は23.7%となり、3.5ポイント増加した。



### 3 金融機関との取引状況 等

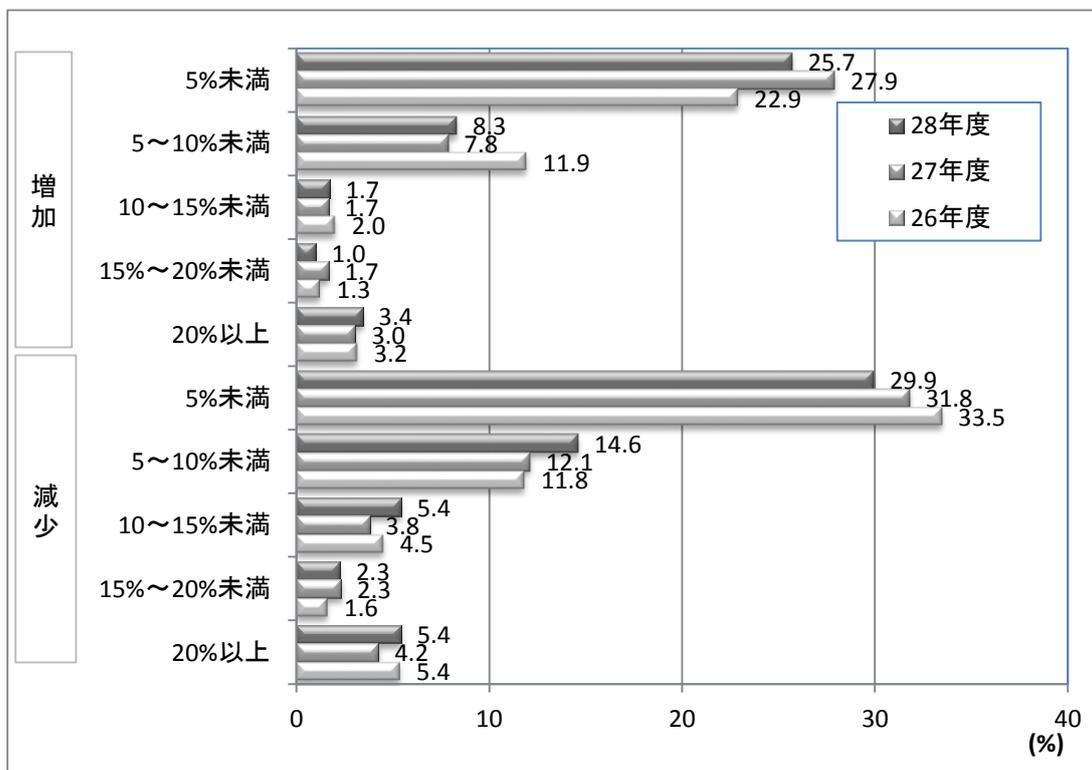
#### (1) 本年6月末預金高はどれくらいありましたか

前年と比較すると、500万円未満の割合が63.6%で1.7ポイント減少し、500万円超が34.2%で2ポイント増加している。



(2) 昨年の6月と比べ預金は増加しましたか、それとも減少しましたか

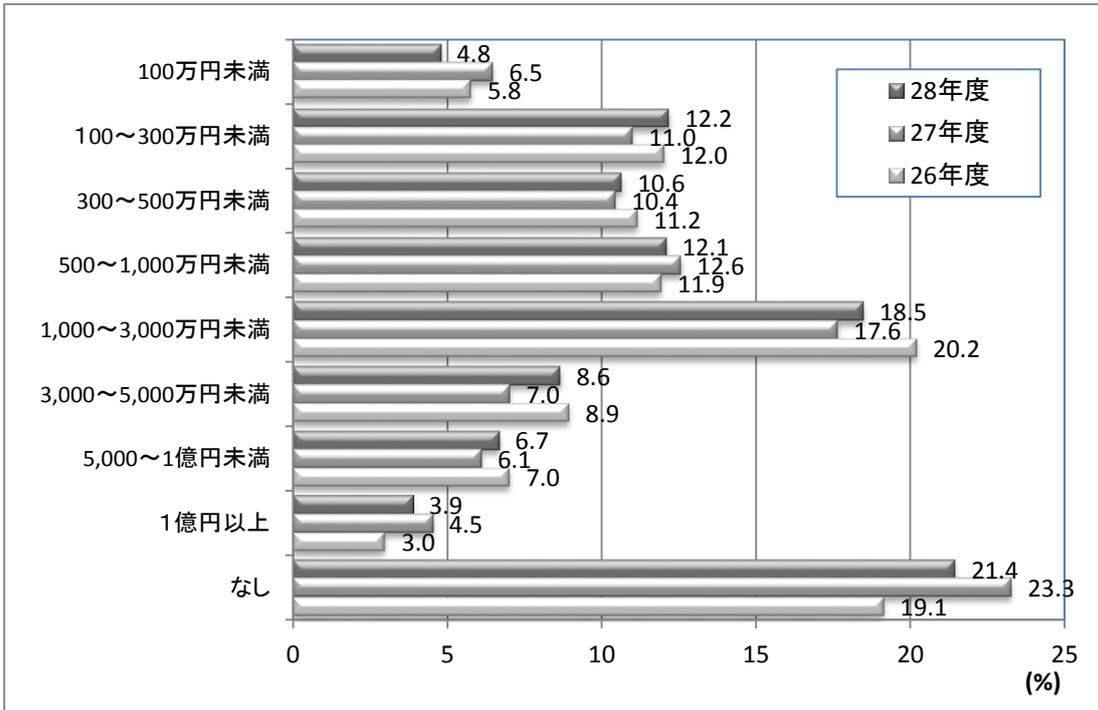
「増加した」企業の割合は2ポイント減少の40.1%。「減少した」企業は3.4ポイント増加の57.6%だった。



(3) 今年6月末の借入額

「借入なし」は前回まで過去4年連続で増加したが、今回は1.9ポイント減少し21.4%となった。業種別ではサービス業、小売業、飲食・宿泊業の順に多い。

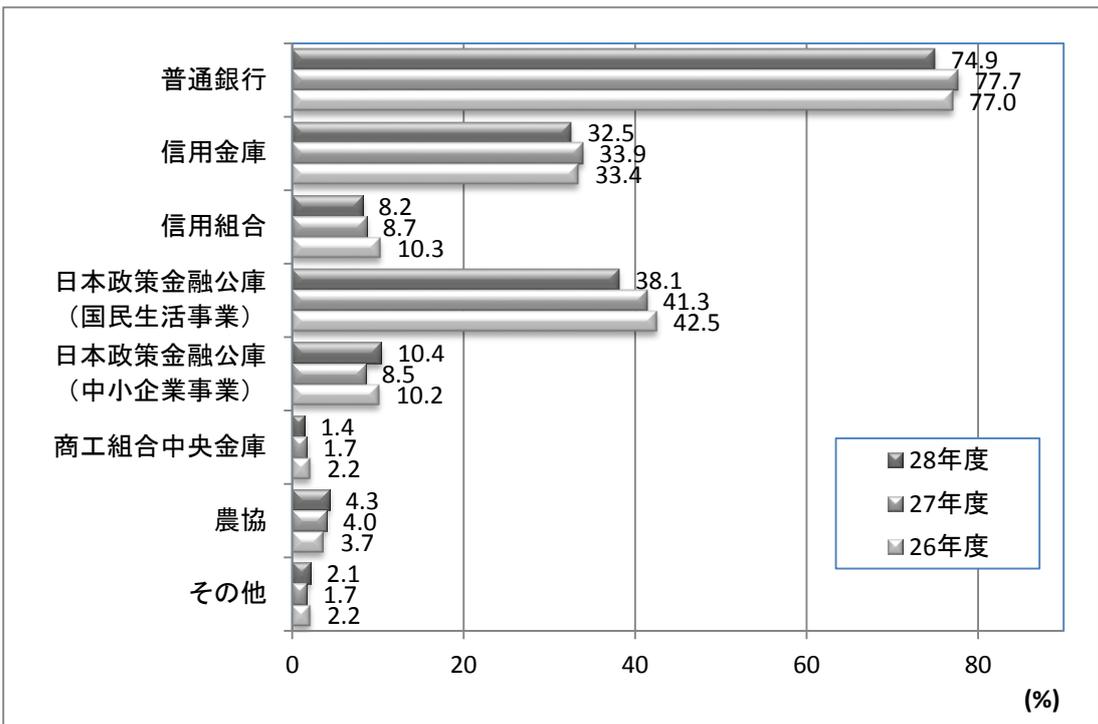
借入1,000万円未満は0.8ポイント減少の39.7%、借入3,000万円以上は1.6ポイント増加の19.2%だった。



(4) 現在の借入先 (多い順に3つ回答)

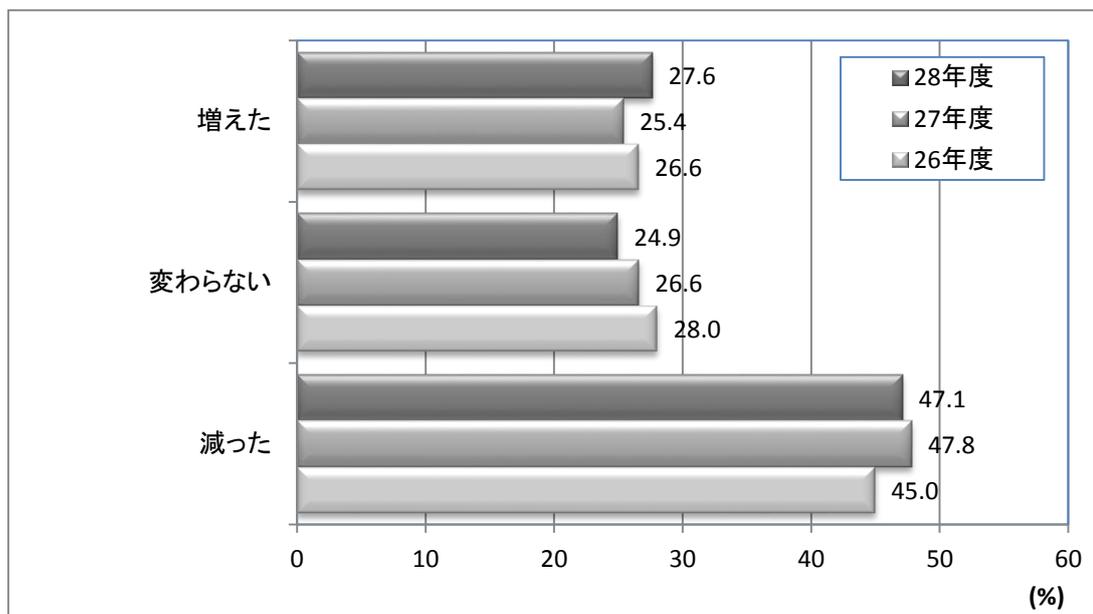
前回調査と比べ、普通銀行が2.8ポイント減少し74.9%、日本政策金融公庫（国民生活事業）が3.2ポイント減少し38.1%。信用金庫が1.4ポイント減少し32.5%となった。

その他先は、個人、社長が多かった。



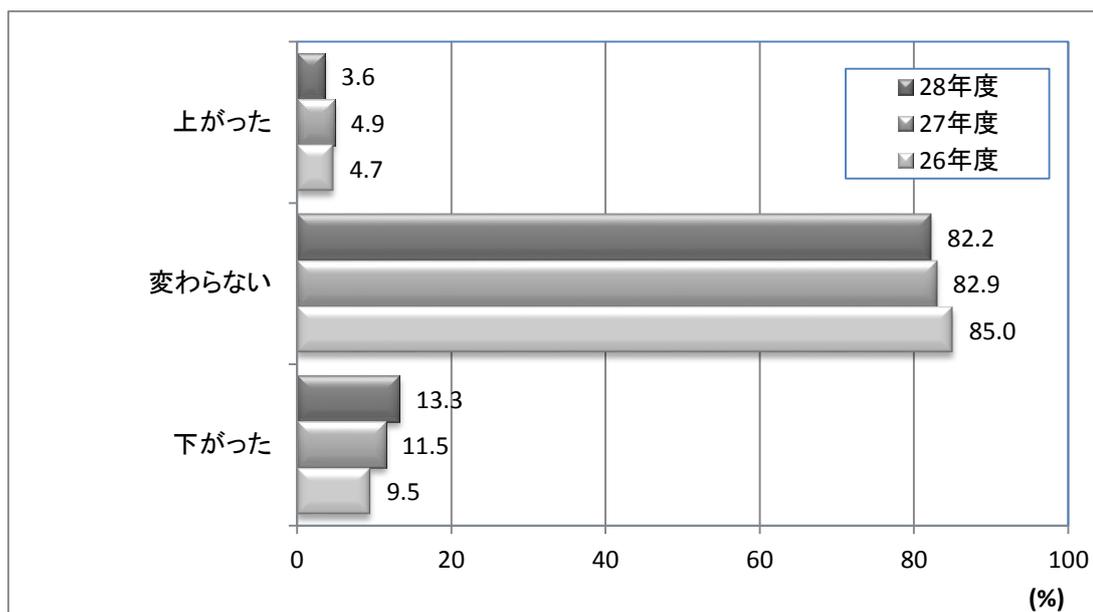
(5) 借入額は（昨年12月頃に比べて）

「増えた」27.6%、「減った」47.1%、「変わらない」24.9%となった。「減った」が「増えた」を7年連続で大幅に上回った。  
「増えた」企業の割合は、業種では、製造業、建設業の順になっている。  
「減った」企業の割合は、運輸業が高かった。



(6) 金利は（昨年12月頃に比べて）

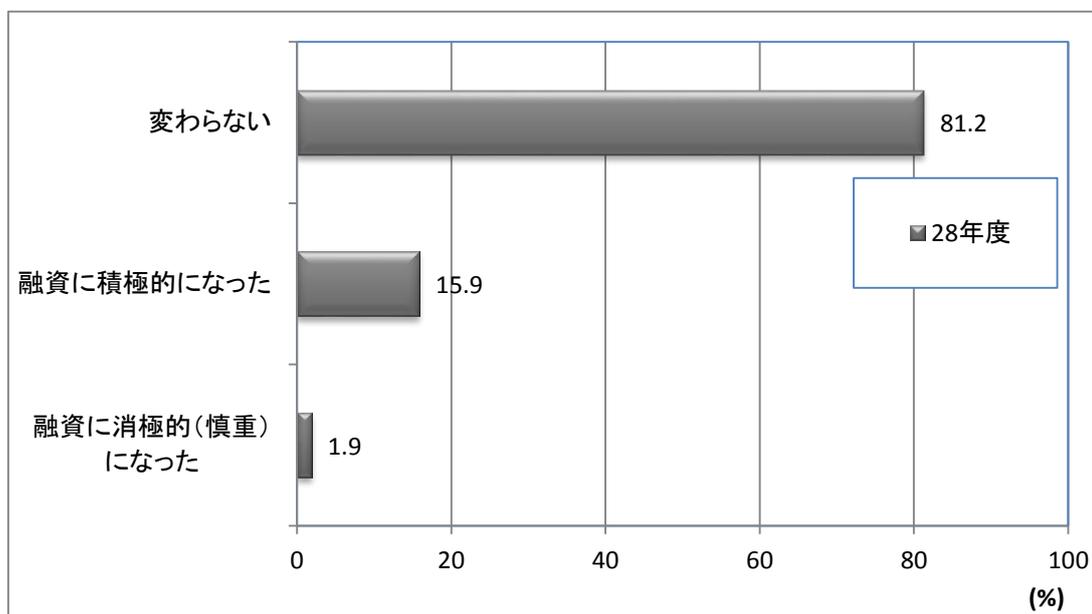
「上がった」割合が1.3ポイント減少し、「下がった」は1.8ポイント増加した。  
また、「変わらない」が0.7ポイント減少し82.2%となる。業種では、「下がった」企業の割合は製造業、建設業、サービス業の順になっている。



(7) 今年2月の日銀のマイナス金利政策で金融機関の姿勢に変化はありますか

変わらないが81.2%で大きな変化はない。

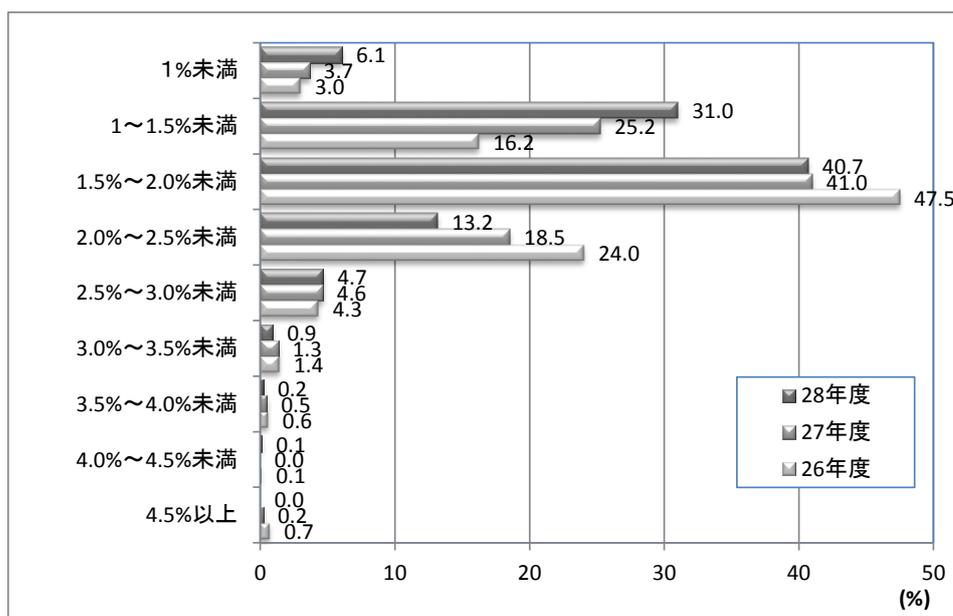
「融資が積極的になった」が15.9%で、「消極的になった」の1.9%を大きく上回った。



(8) 現在の借入金利 (平均)

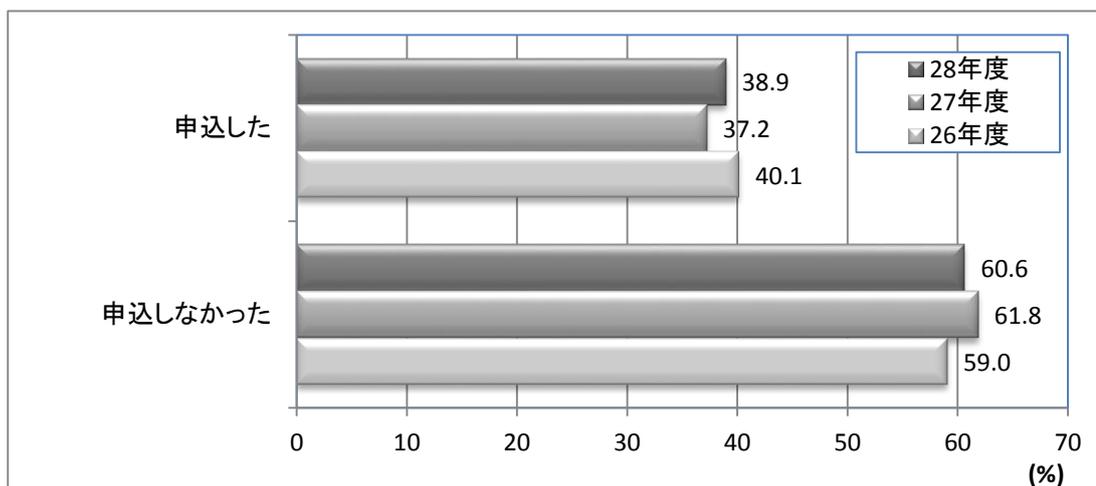
平均金利は、「1.5%～2.0%未満」が最も多い。「1.0～1.5%未満」が5.8ポイント増加、1%未満は2.4ポイント増加し、平均金利は下方に移行している。

3.0%以上の借入金利割合が前回比0.8ポイント減少し1.2%になった。



(9) 最近6ヶ月間の借入申込（借入申込実績）

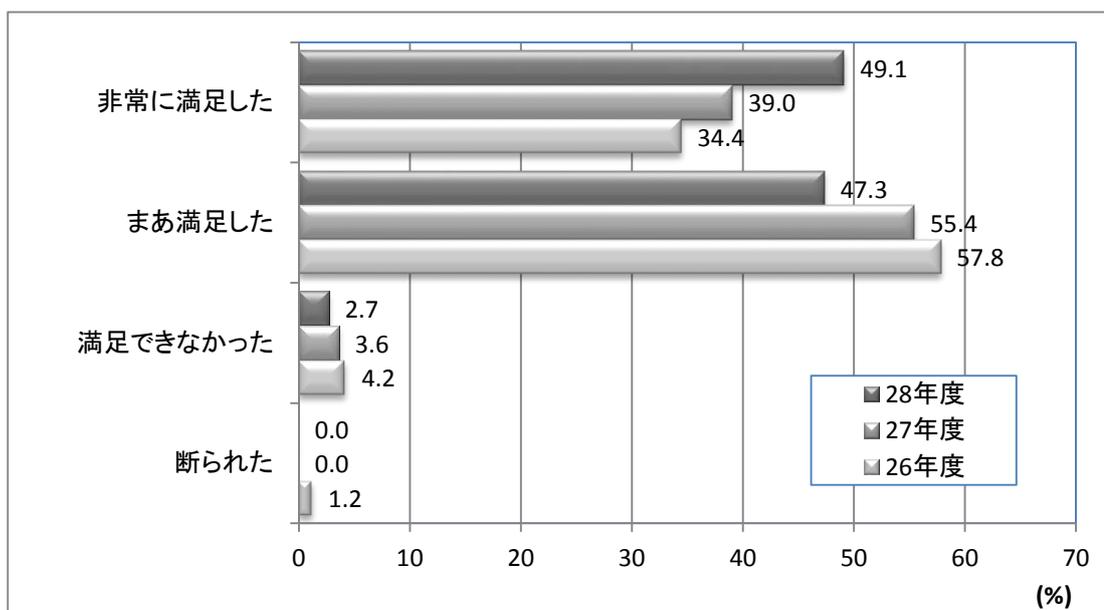
「申込した」割合は前回比 1.7 ポイント増加の 38.9%だった。業種別では製造業、建設業の順で 40%以上の割合で借入申込をしたと回答。「申込しなかった」は 1.2 ポイント減少し、業種では飲食・宿泊業、運送業、小売業、卸売業、の順で 60%以上が借入申込をしなかったと回答。



(10) 借入の満足度

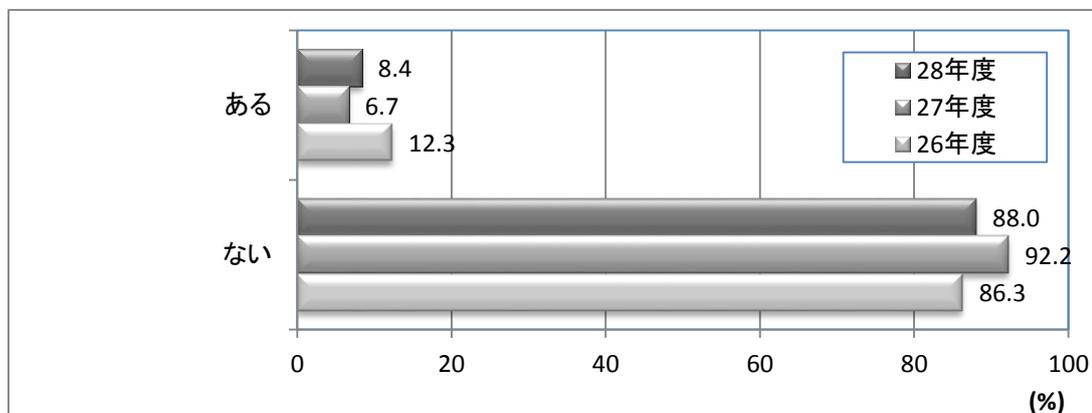
「非常に満足」、「まあ満足」合計で 2 ポイント増加の 96.4%。「満足できなかった」は 0.9 ポイント減少し、23 年度以降連続して低下した。

「非常に満足」「まあ満足」と回答した業種では、運輸業、飲食・宿泊業、卸売業、の順で割合が高く、「不満」は小売業、製造業が 3%を超えた。



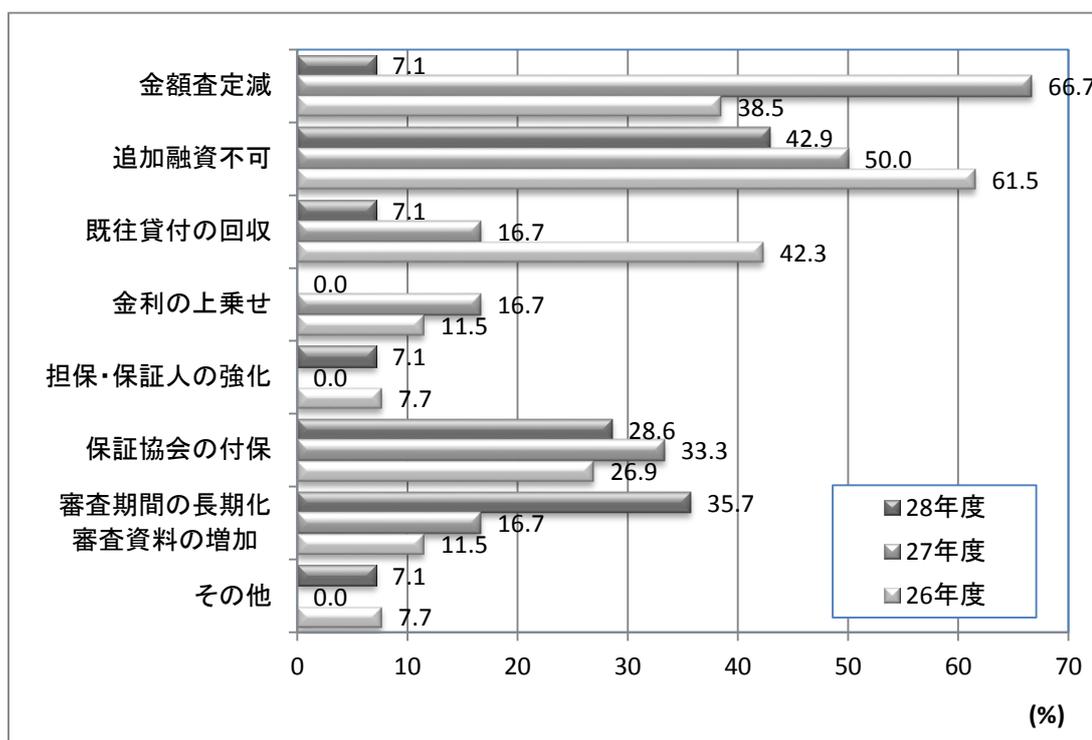
### (11) 「貸し渋り」の有無

「ある」が前回より 1.7 ポイント増加の 8.4%。「ない」は 4.2 ポイント減少の 88% となった。「ある」の件数を業種別でみると、小売業、サービス業の順で割合が高い。



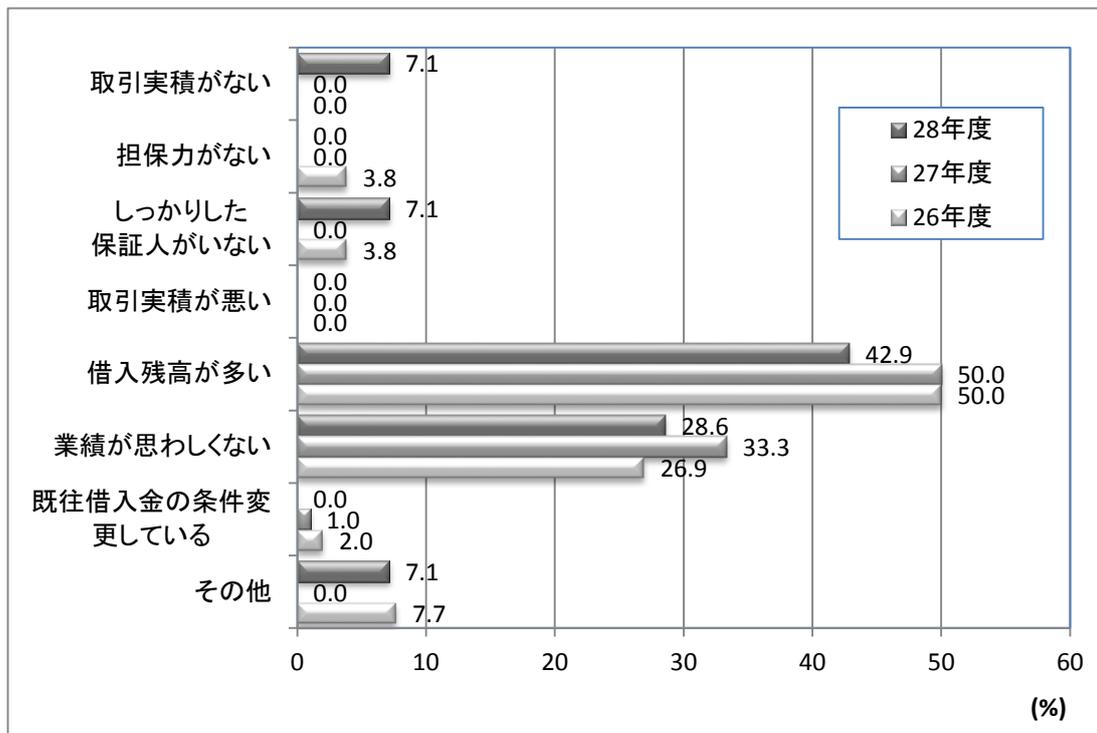
### (12) 「貸し渋り」の内容 (3つの複数回答)

「追加融資不可」、「審査期間・審査資料の増加」「保証協会の付保」が多かった。「金額査定減」、「既往貸付の回収」が大幅に減少した。「金利の上乗せ」は 0 となった。



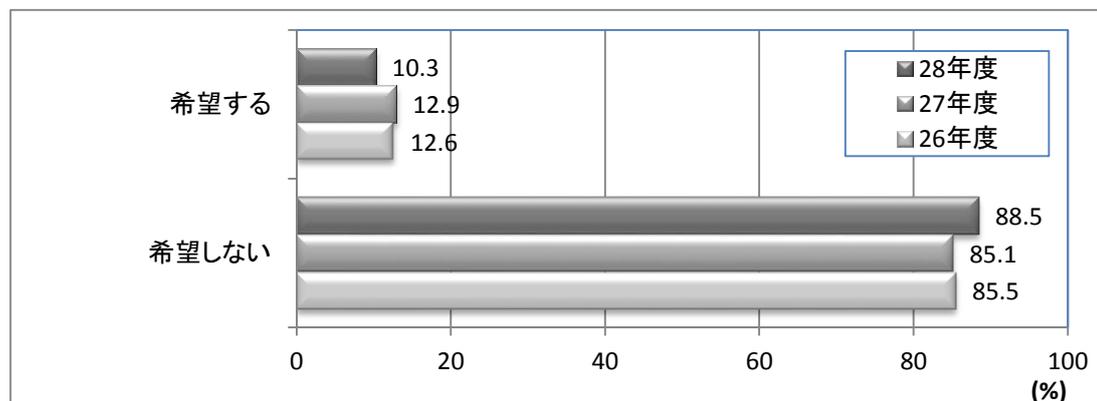
### (13) 借りにくい、借りられない理由〈回答数構成比〉

「借入残高が多い」が42.9%、「業績が思わしくない」は28.6%で、2項目が主要な要因となっている。



### (14) 借入返済の条件変更（希望の有無）

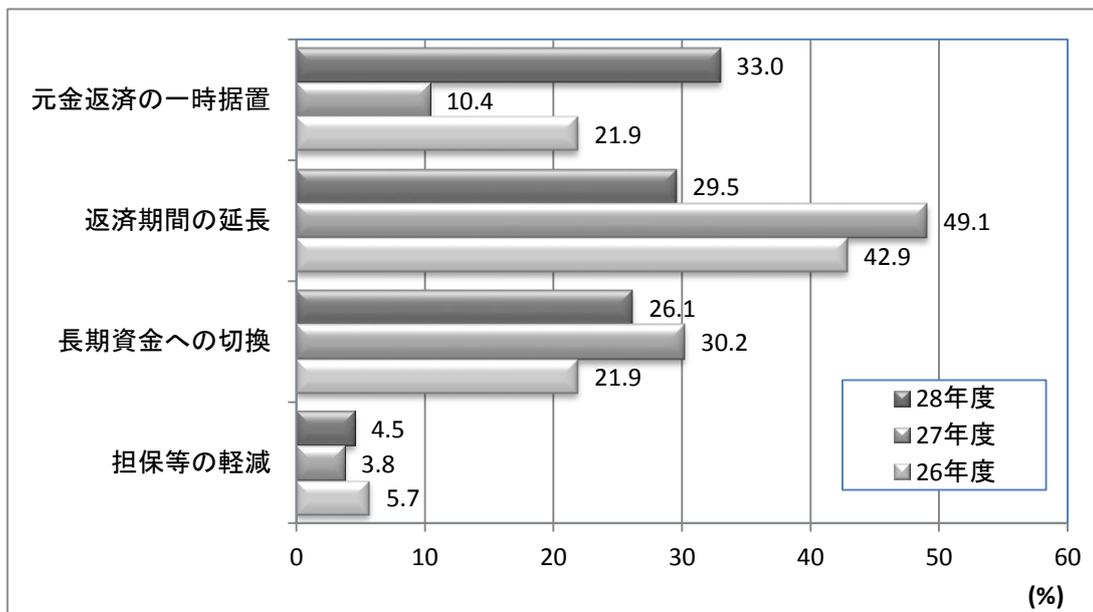
条件変更を「希望する」企業の割合が、前回調査と比べ2.6ポイント減少し、「希望しない」は、3.4ポイント増加の88.5%となりかなり減少した。条件変更を「希望する」業種では、卸売業、小売業、サービス業の順で割合が高い。



### (15) 希望する条件変更

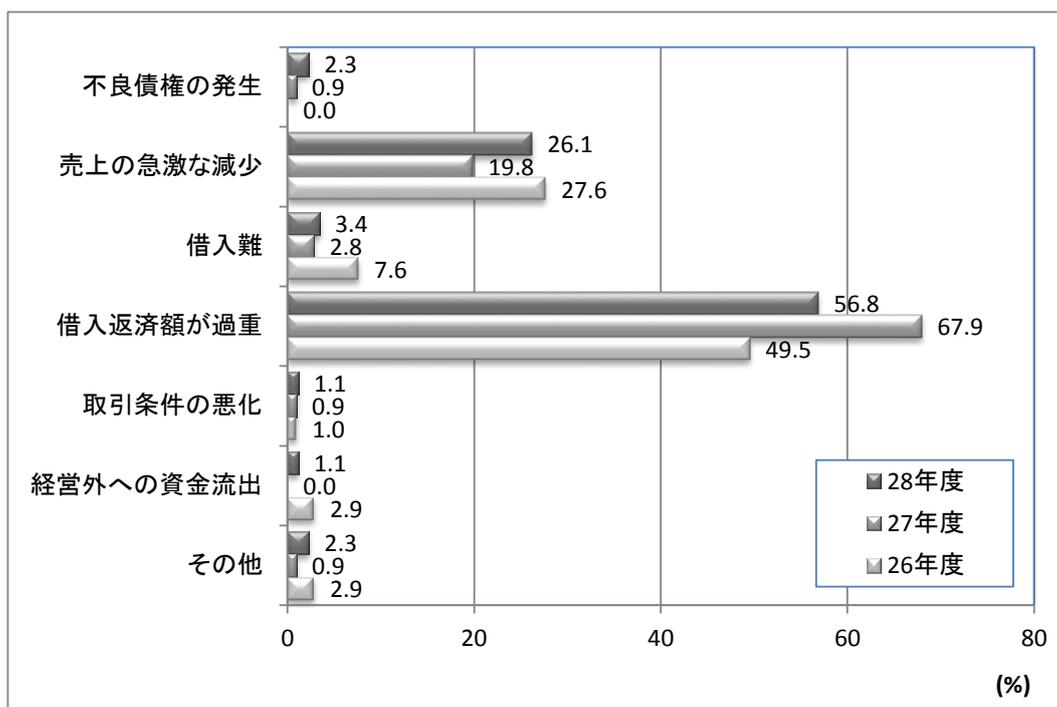
「元金返済の一時据置（猶予）」は22.6ポイント増加の33%となった一方、「返済期間の延長」は19.6ポイント減少の29.5%、「長期資金への切換」は4.1ポイント減少の26.1%だった。

「元金返済の一時据置（猶予）」を希望する業種では建設業、サービス業が多い。



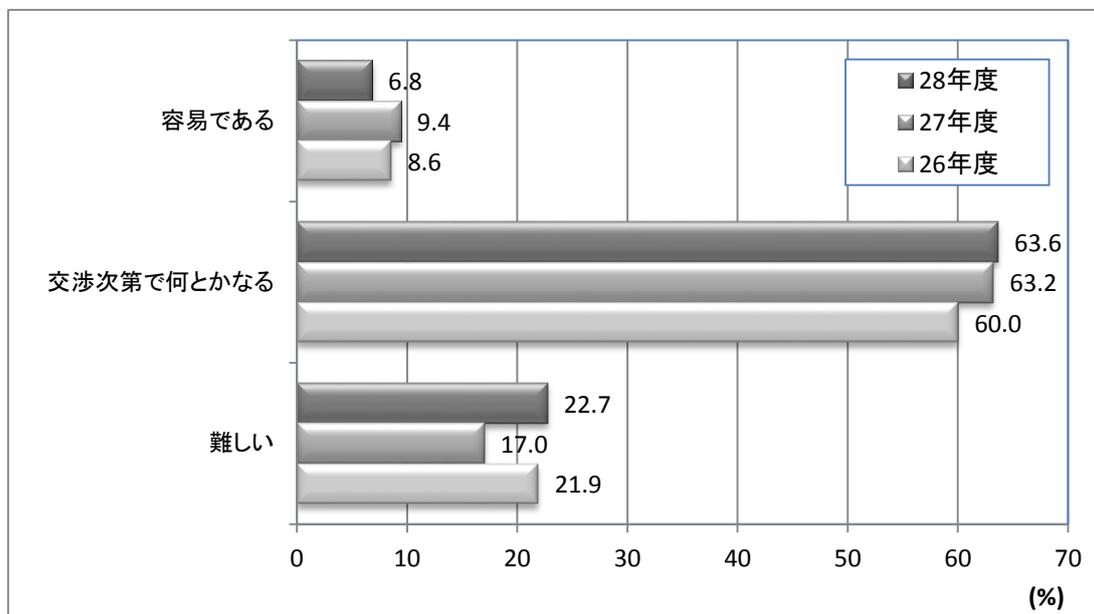
### (16) 条件変更を希望する理由

「借入返済額が過重」が56.8%と高水準である。「売上の急激な減少」が26.1%で、条件変更を希望する2大要因になっている。



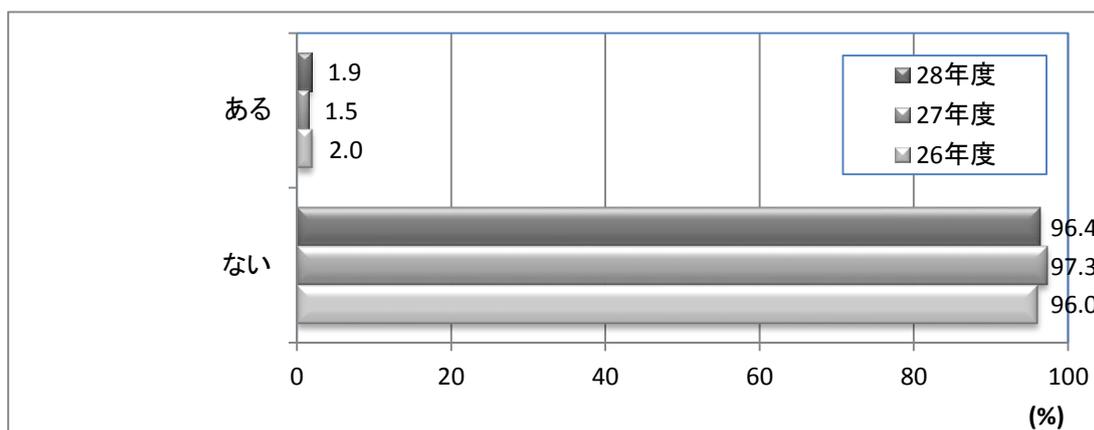
### (17) 条件変更の難易度

前回調査と比べ、「容易である」と「交渉次第で何とかなる」の合計は2.2ポイント減少の70.4%となる。「難しい」は5.7ポイント増加の22.7%、となった。



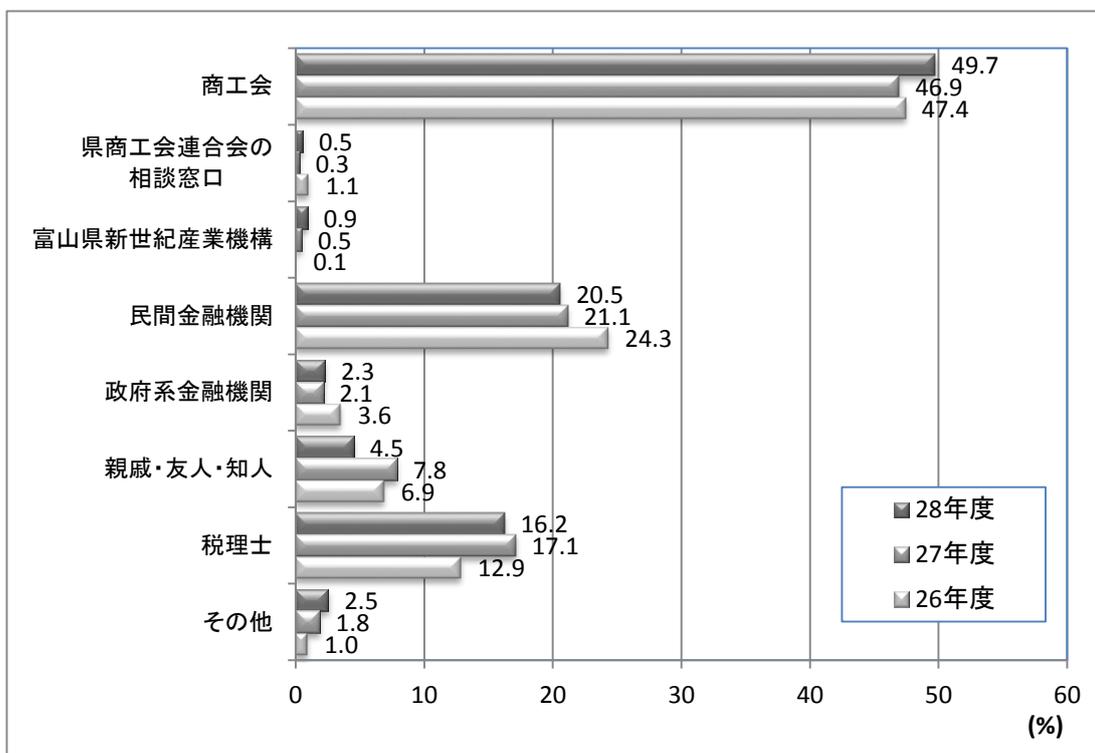
### (18) 金融機関からの借入金返還要求の有無

「ない」が96.4%と圧倒的に高い。



### (19) 経営が著しく悪化した場合の相談先

先行きに問題が生じたとき、相談に行くところでは商工会、民間金融機関が多く、ついで税理士が 16.2%となった。その他の意見では、「組合」「行くところがない」「廃業する」等があった。

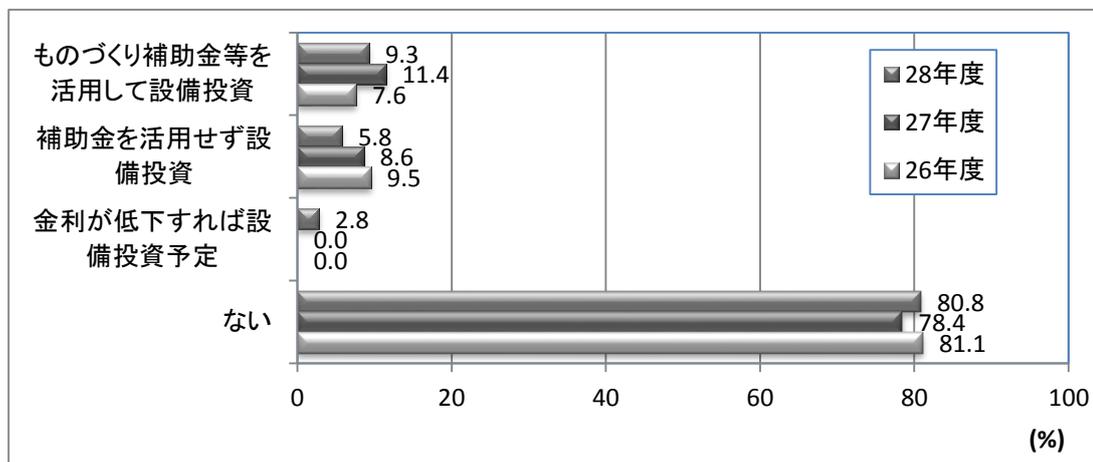


## 4 借入計画 等

### (1) 今後の設備投資計画はありますか

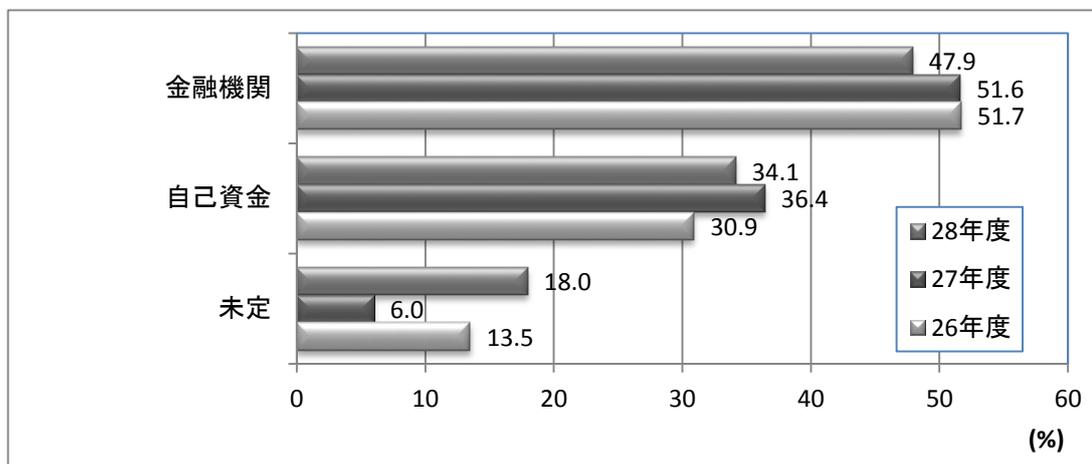
「ものづくり補助金を活用しての計画あり」が 9.3%、「補助金を活用せず計画あり」が 5.8%である。「計画なし」は 80.8%と高水準で 2.4 ポイント増加した。

「金利が低下すれば設備投資予定」は 2.8%で、金利要因は小さい。



## (2) 資金調達の予定について

調達先は 47.9%が金融機関だが、自己資金も 34.1%と高水準である。

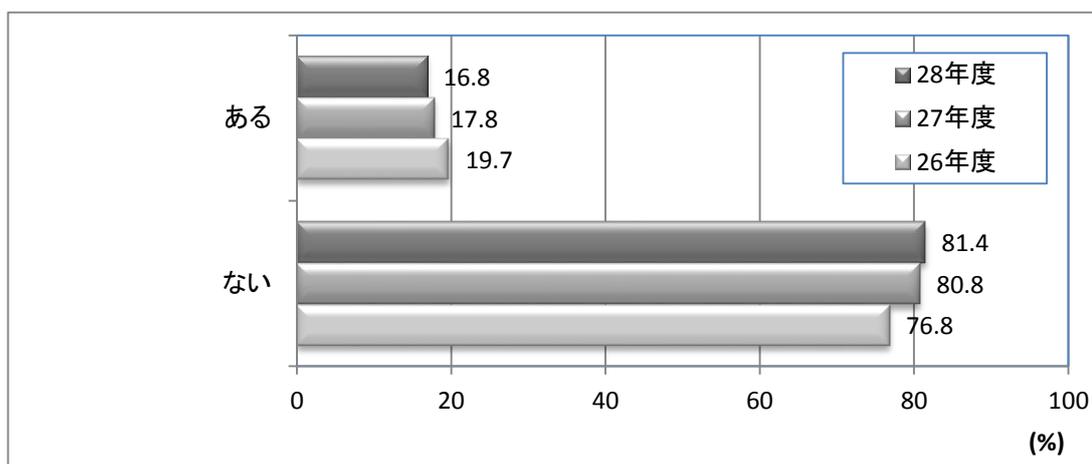


## (3) 今後1年の借入計画

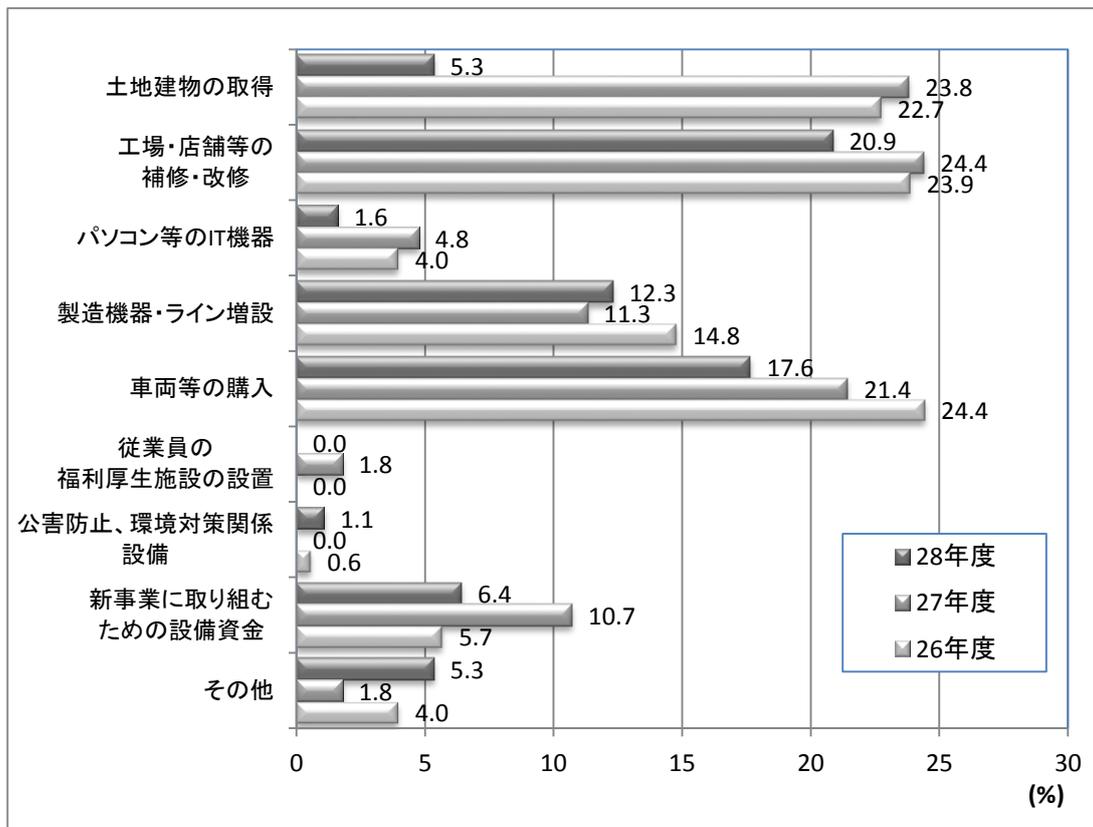
「借入計画がある」は前回と比べ、1ポイント減少している。

「ある」を業種別にみると、卸売業、運輸業、製造業が高い。

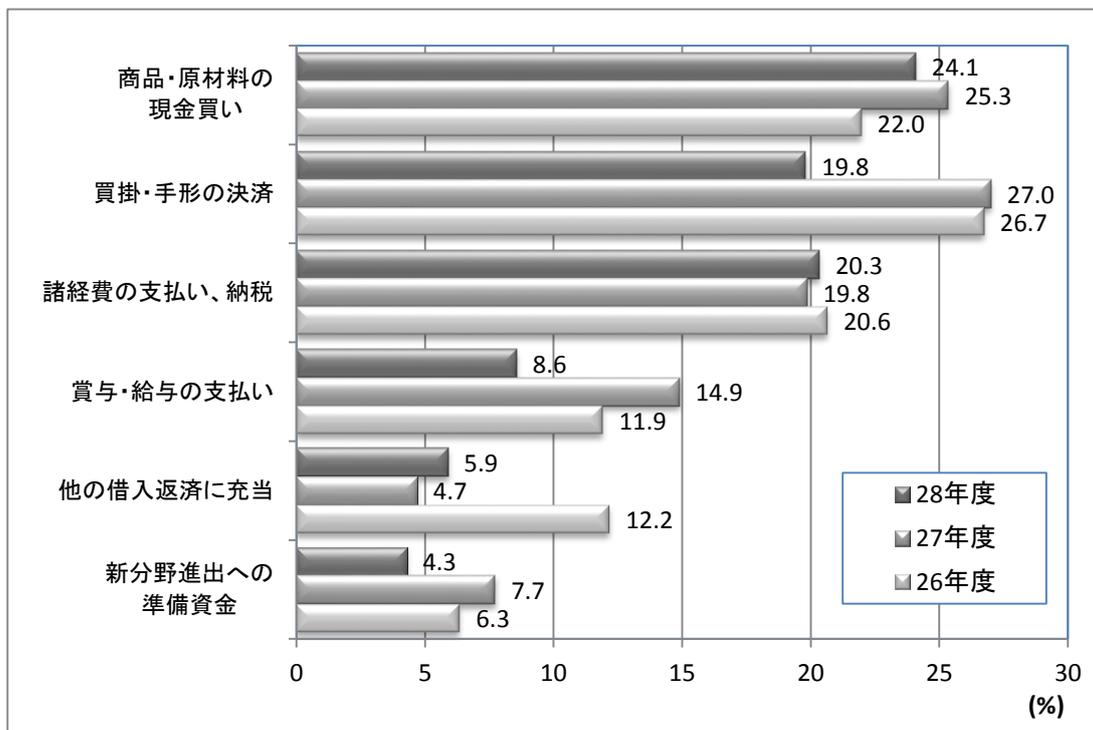
「借入計画がない」は6年連続で増加しており、慎重な姿勢が窺える



### 【設備資金】

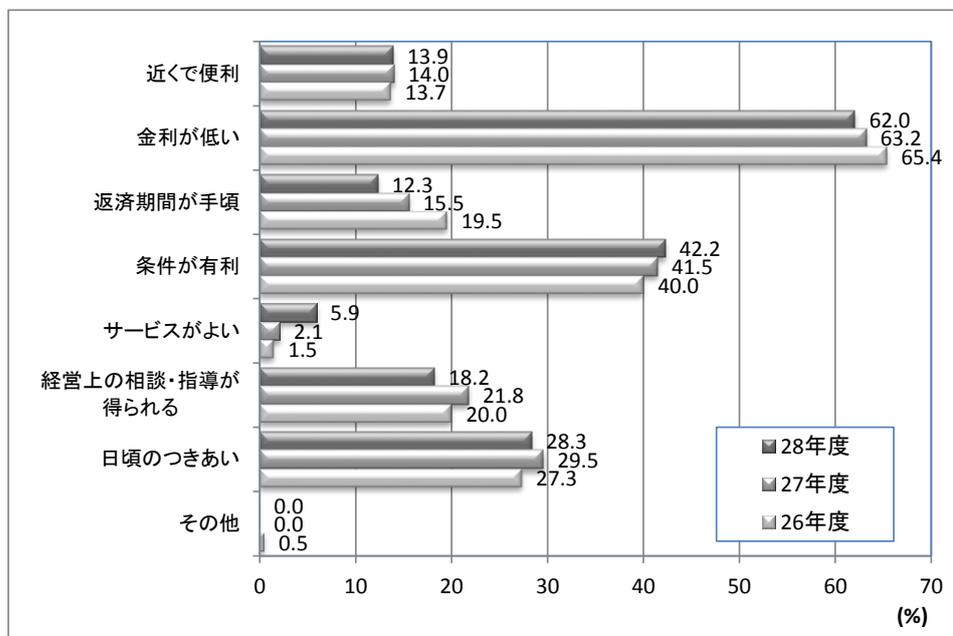


### 【運転資金】



#### (4) 借入時の重視条件（2つ以内の複数回答）

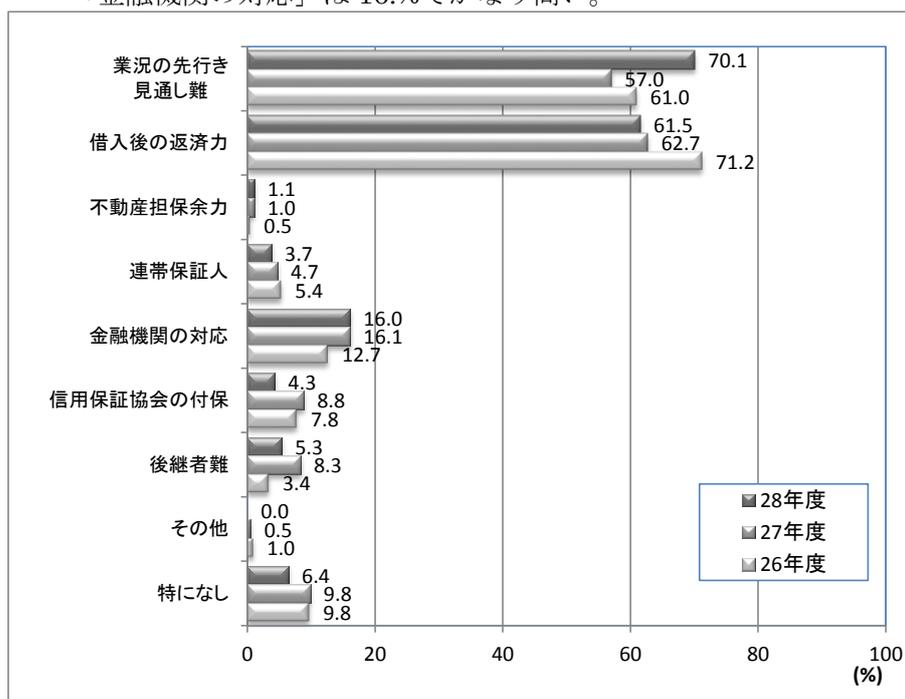
「金利が低い」が62%、「条件が有利」の42.2%で取引条件面が重視されている。間接条件の「日頃のつきあい」「経営上の相談・指導が得られる」も高い水準を維持している。



#### (5) 借入を考える場合、何が懸念されるか（2つ以内の複数回答）

「業況の先行き見通し難」は70.1%と前年比13.1ポイントの大幅増、「借入後の返済力」は61.5%で2大懸念項目となっている。

「金融機関の対応」は16.%でかなり高い。

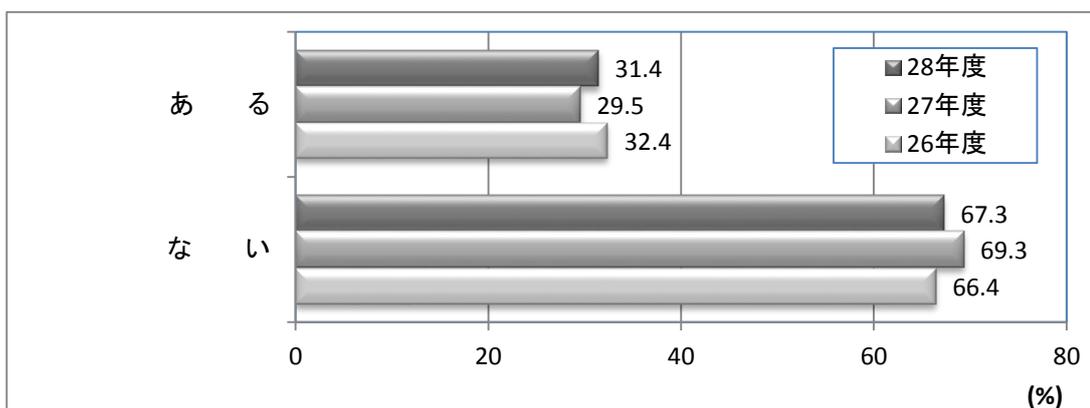


## 5 融資制度 等

### (1) 国・県・市町村の融資制度の過去1年以内の利用状況

前年に比べ、「利用がある」割合は1.9ポイント増加しており、「ない」は2.0ポイント減少した。

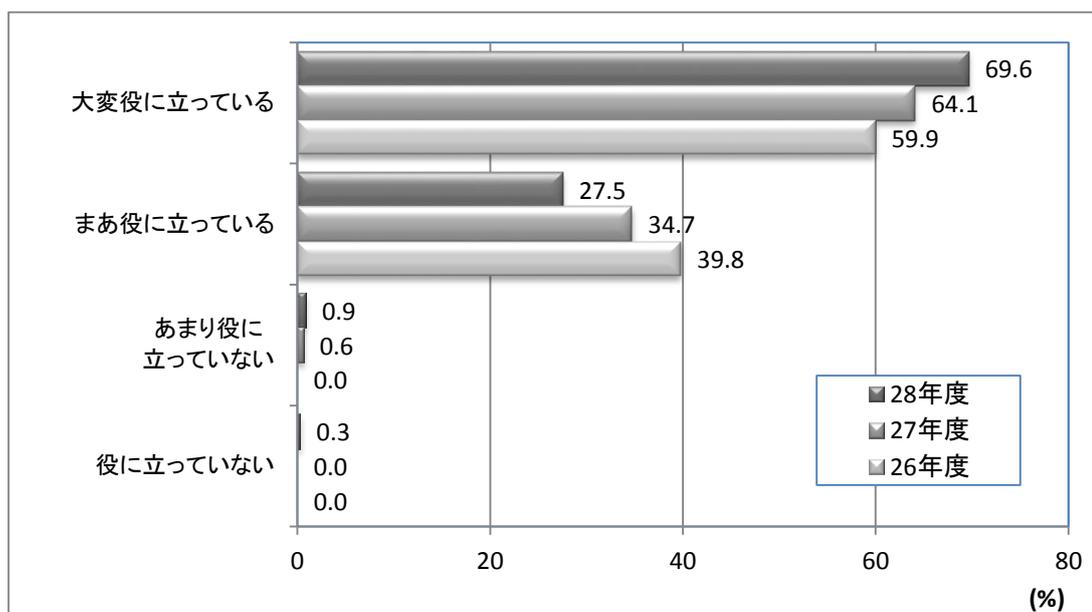
「利用がある」を業種別に見ると、卸売業、飲食・宿泊業、製造業、建設業の順で高い。「ない」の従業員の規模別では「0人」「1人」「2人」の小規模が高かった。



### (2) 国や県、市町村の融資制度は経営(資金調達)の役に立っていますか

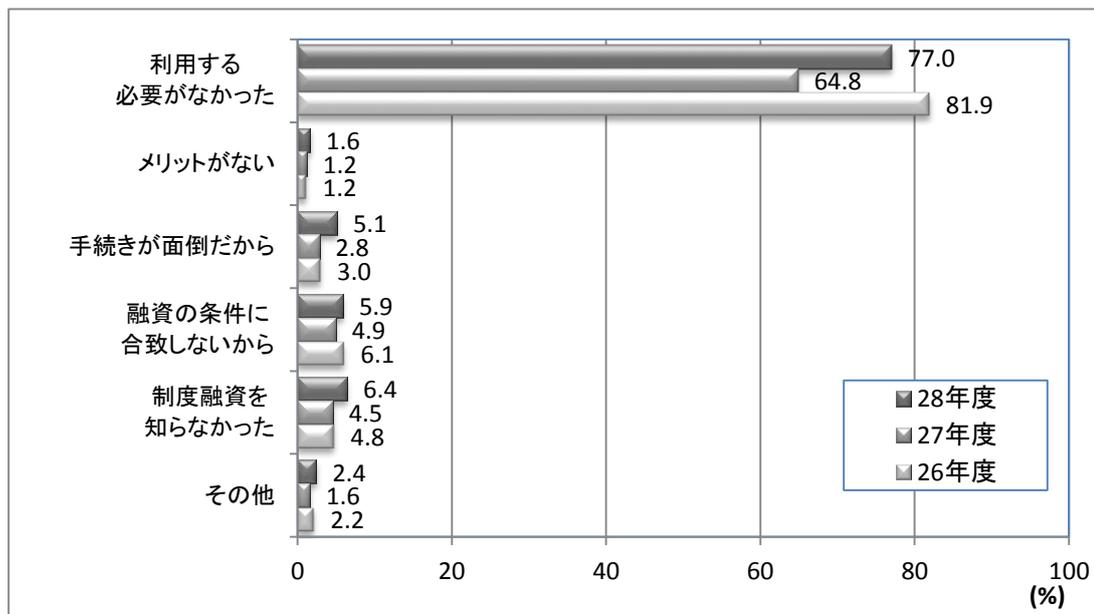
経営に役立っていると回答した企業は、「大変役にたっている」「まあ役にたっている」を合わせて97.1%を占めている。

「あまり役にたっていない」「役にたっていない」は合計で1.2%だった。



### (3) 国や県、市町村の融資制度を利用しなかった理由

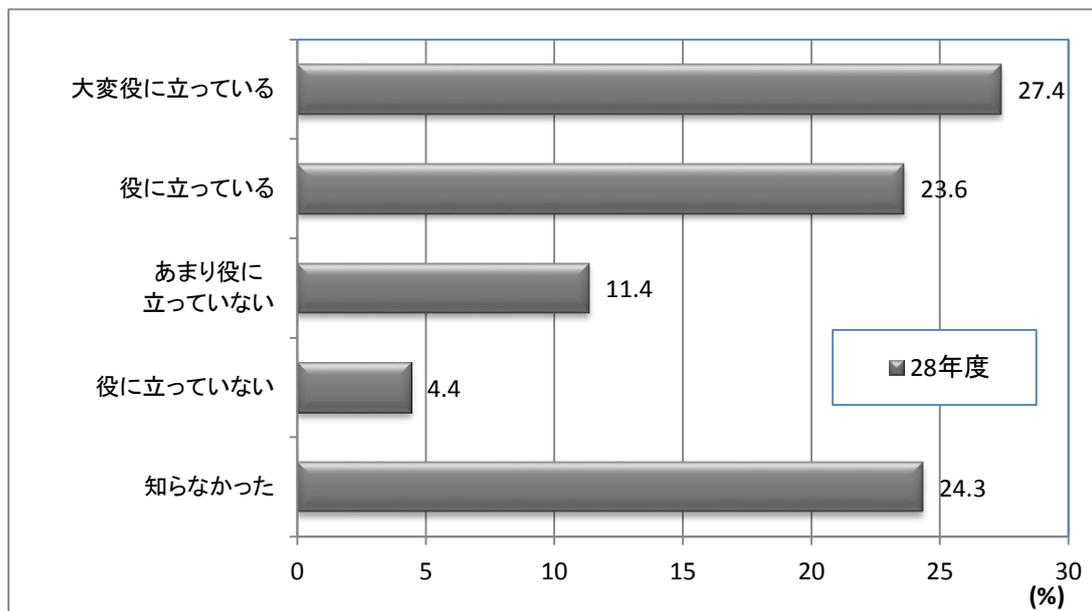
前回に比べ、理由の大半を占める「利用する必要がなかった」割合が12.2ポイント増加の77%になった。また「融資条件合致せず」は1ポイント増加、「手続きが面倒だから」は2.3ポイント増加した。



### (4) 国(政府系金融機関)、県、市町村制度融資について、寄せられた意見

- ・現状の公定歩合に応じた金利の導入。
- ・設備投資に対する助成金の増額。
- ・業種別特色にあわせた制度があればいいと思う。
- ・創業者の為の少額でもいいので借りやすい制度を望む。
- ・民間金融機関からの借入金を国の金融機関に変更できる制度。
- ・個人保証の解除を希望（次世代に承継するためにも）。
- ・売上につながる用途でないと借りられない。他の用途でも可能な融資制度を望む。
- ・市・県の補助金制度があるが書類申請に時間がかかりすぎる。
- ・個人商店が奮闘しても補助金の対象になるのはかなりむずかしい。決算書で判断して補助金をだせないか。
- ・現況で満足。
- ・もっとわかりやすくPRしてほしい。

- (5) マル経融資(日本政策金融公庫の公的融資制度)は、経営の役に立っていますか  
「大変役に立っている」と「役に立っている」で51%と高水準の一方、「知らなかった」が24.3%となった。

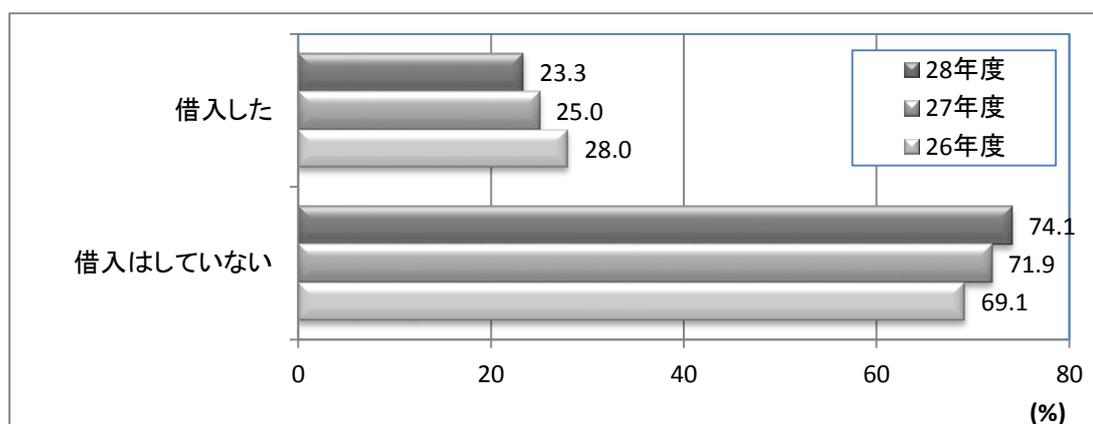


- (6) 信用保証協会についておたずねします

ア、最近1年間に信用保証協会の保証付きで借入をされましたか

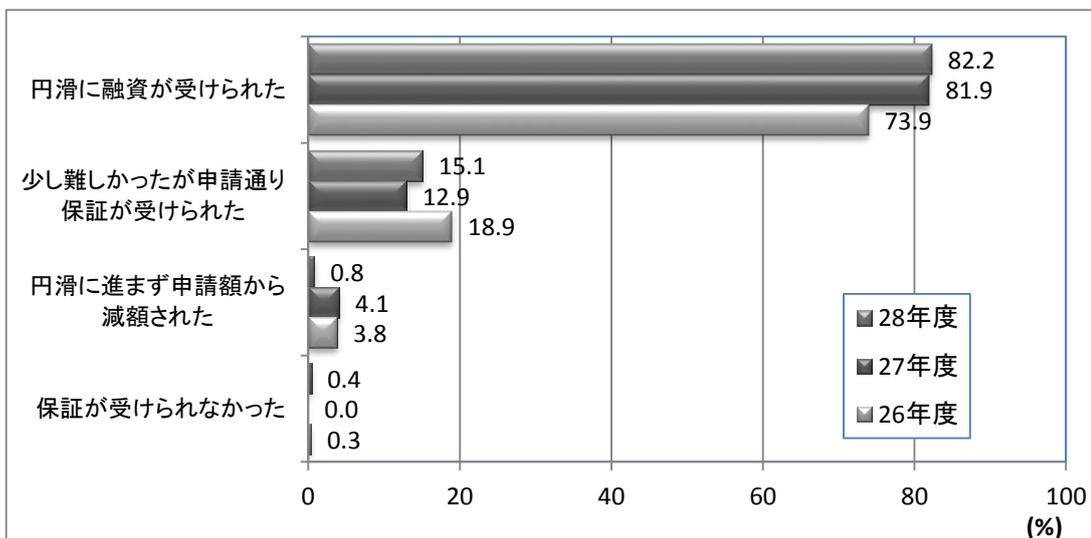
最近1年間に保証付きで借入をした企業は23.3%で前年比較では1.7ポイント減少、6年連続で減少した。

借入した業種では、卸売業、運輸業、製造業の順で高い。



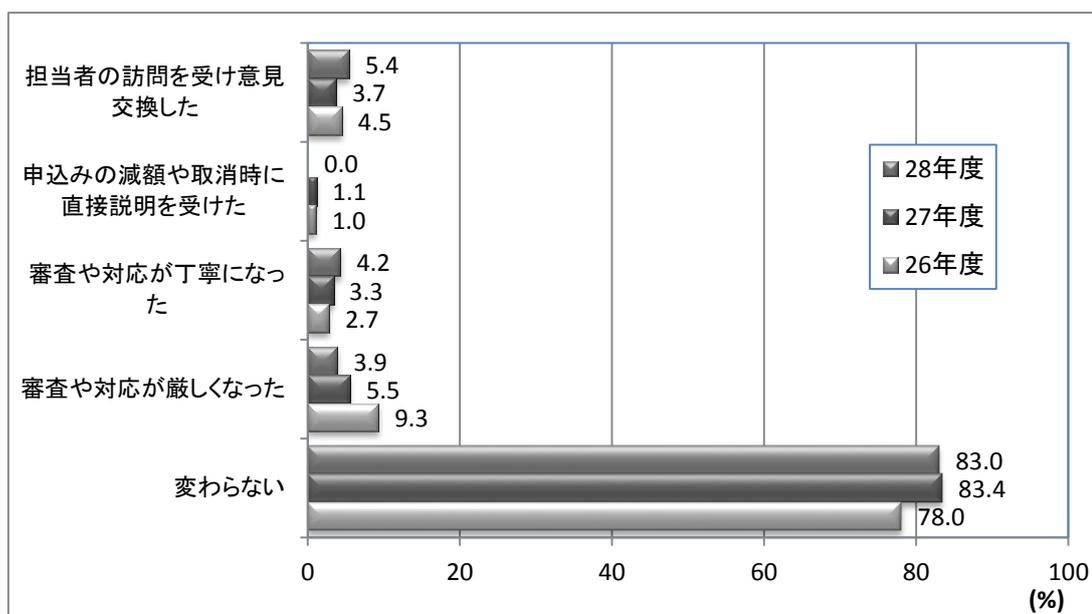
### イ、円滑に保証手続きが進みましたか

「円滑に融資が受けられた」82.2%と「少し難しかったが受けられた」15.1%の合計の97.3%が保証応諾となり、「減額された」「受けられなかった」の合計は1.2%だった。



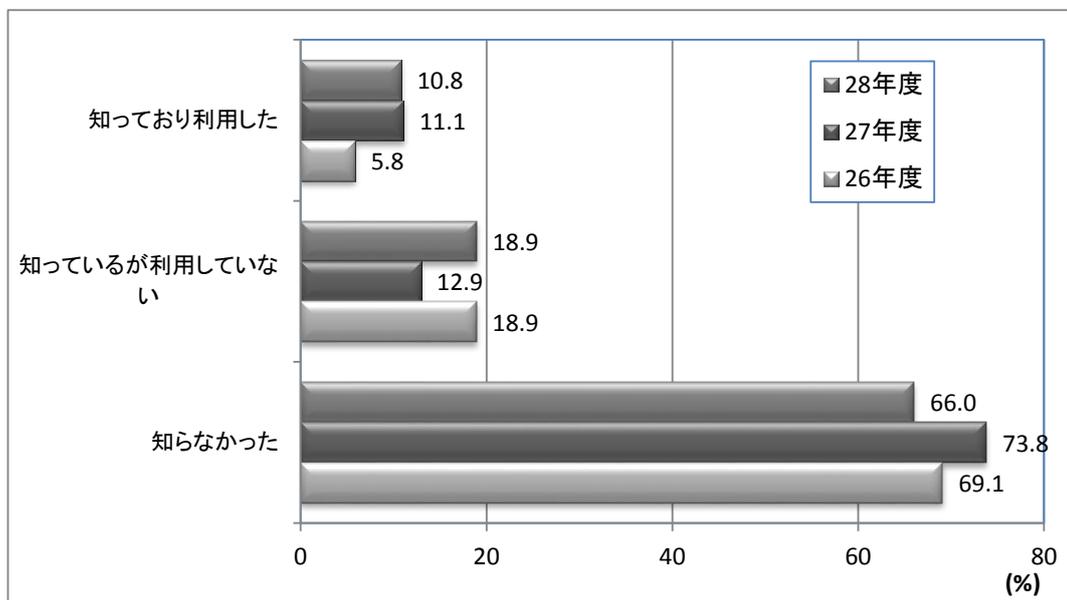
### ウ、保証協会の態度に変化がありましたか

「変わらない」が83%と高水準だった。「厳しくなった」は3.9%あった。「意見交換」や「対応が丁寧」など評価意見が9.6%あった。



エ、平成 25 年 10 月より「設備資金」の保証料が 0.2%割引となっておりますがご存じでしたか

「知らなかったが」66%を占め「知っている」の合計 29.7%を大幅に上回った。



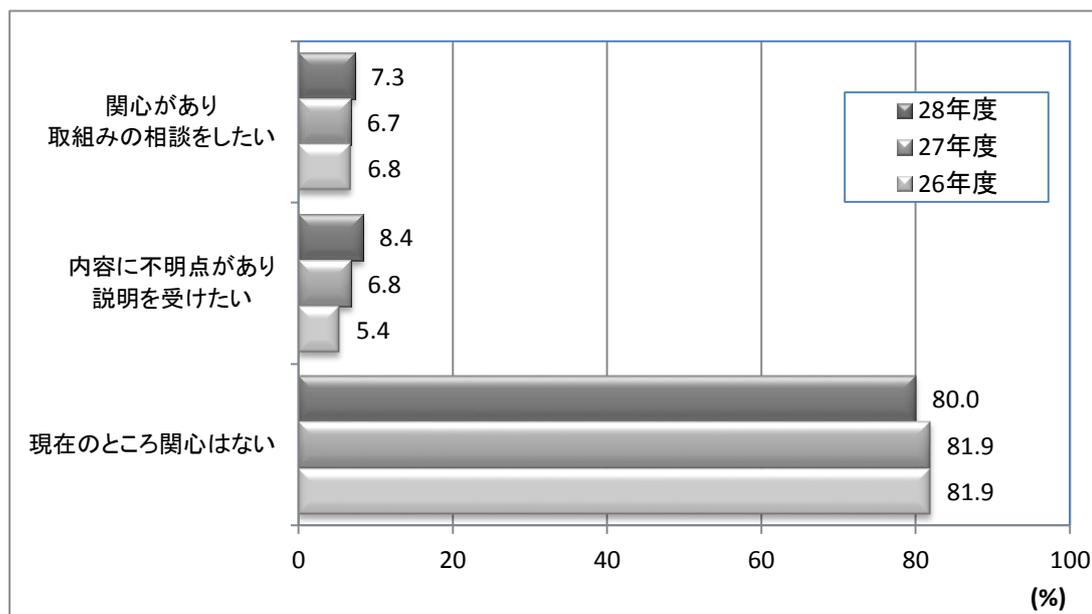
(7) 信用保証制度について、ご意見があれば自由にご記入ください

- ・保証料の引き下げ。他に同意見 4 件。
- ・利率の引き下げ。
- ・個人営業時は保証を受けていたのに LLP（有限責任事業組合）になってからは保証を受けられなくなった。利用出来るようにならないか。
- ・創業間もない企業にも活用できる制度を希望。
- ・金融機関は保証協会の方を見ているので、協会のいいなりと感じる。
- ・口座引き落としの 3 回残高不足のペナルティを、もう少し寛大にしてほしい。
- ・現在の業績より今後の展望重視の審査。
- ・後継者がいる場合、持続化に不可欠な設備への審査面の考慮。
- ・信用保証は国の機関が実施した方が良い。
- ・民間金融機関へ融資条件の指導をしてほしい。
- ・早めの返済に対する保証料の返却が遅かった。
- ・保証料は金融機関が支払うべき。
- ・連帯保証人制度を違法にしてください。
- ・いろいろ保証制度を使っており、現状で良い。
- ・信用のない企業は借りられない。そんなものと思っている。

## 6 最近の諸制度についておたずねいたします

### (1) 「中小企業・小規模事業者ビジネス創造支援事業」の専門家派遣について

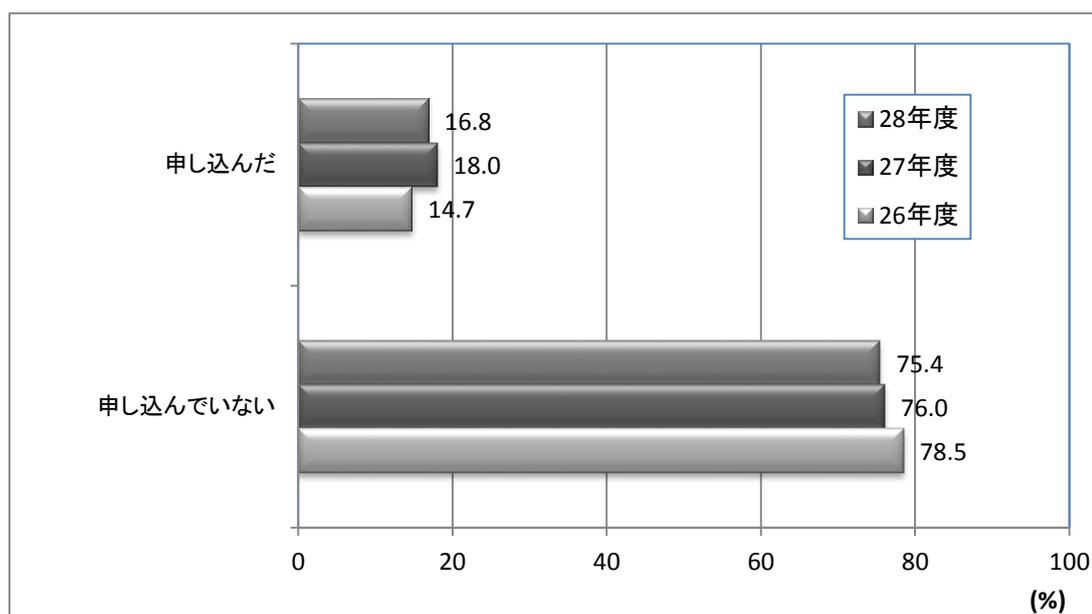
「相談したい」「説明を受けたい」は15.7%と前回比較で2.2ポイント増加した。  
「関心はない」は80%とやや減少した。



### (2) 金融円滑化法終了後のことについておたずねします

#### ア、円滑化法終了後の融資状況についておたずねします

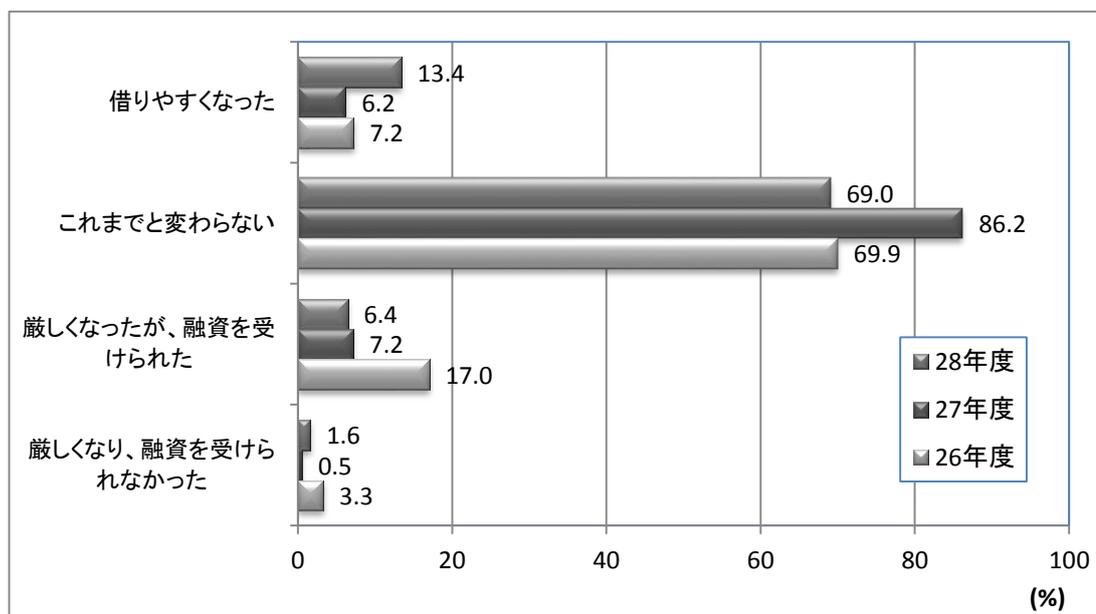
「貸付条件等の変更や新規融資を申し込んだ」は16.8%、「申し込んでいない」が75.4%だった。



### イ、金融機関の審査についておたずねします

「借りやすくなった」と「これまでと変わらない」「厳しくなったが、融資を受けられた」の合計は88.8%で10.8ポイント減少した。

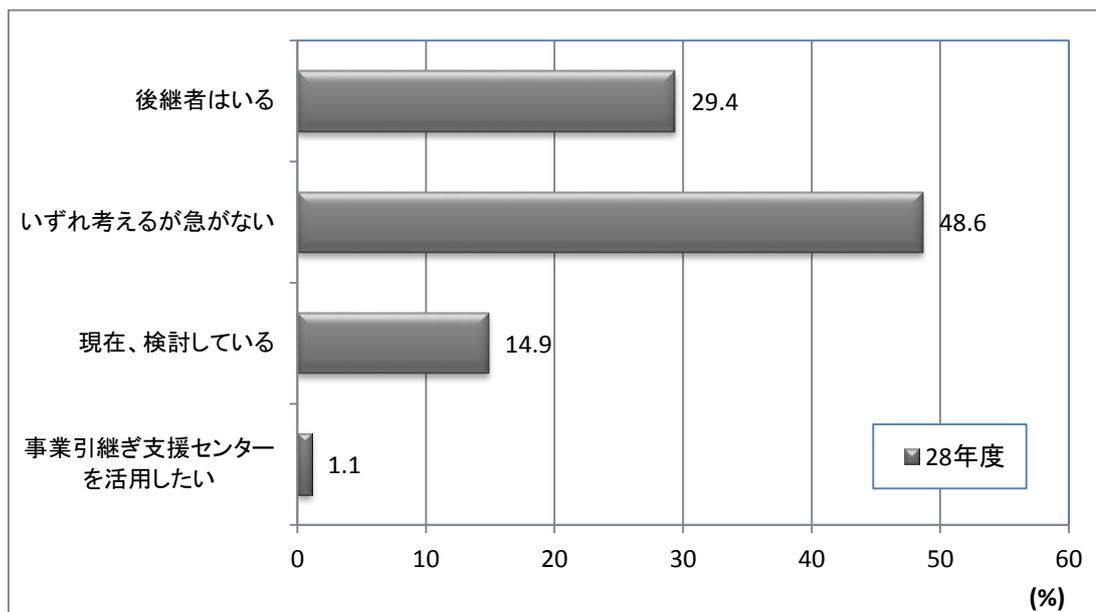
「融資を受けられなかった」は前期比1.1ポイント増加の1.6%となった。



### (3) 後継者対策についておたずねします

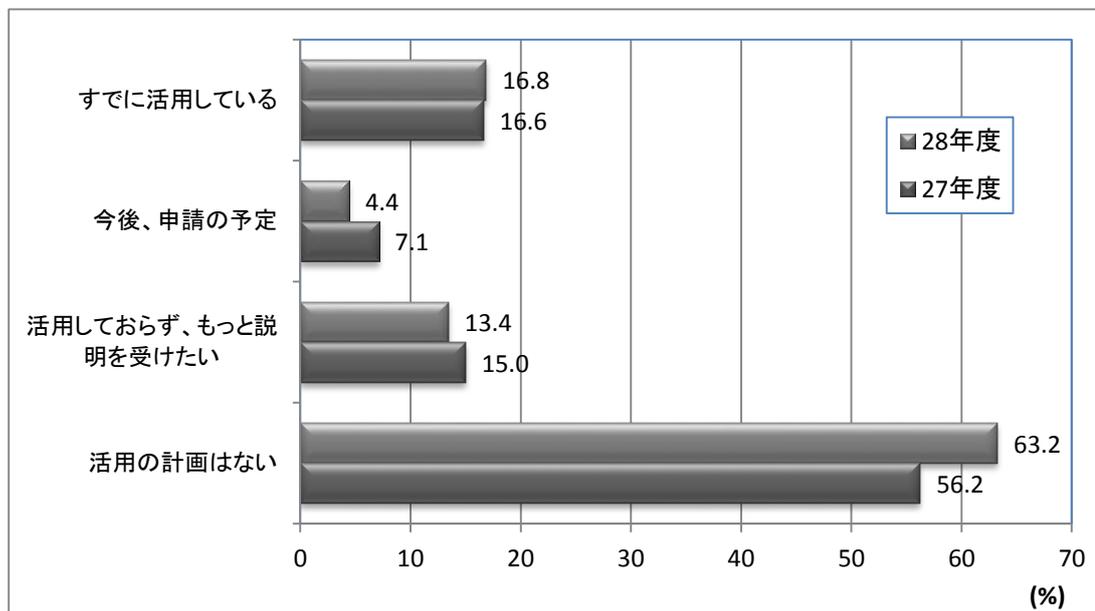
「後継者はいる」は29.4%にとどまる。対策としての「いずれ考えるが急がない」が48.6%で「現在、検討している」の14.9%を大きく上回った。

事業引継ぎセンターは、最近の設立で認知度はまだ低い状況と思われる。



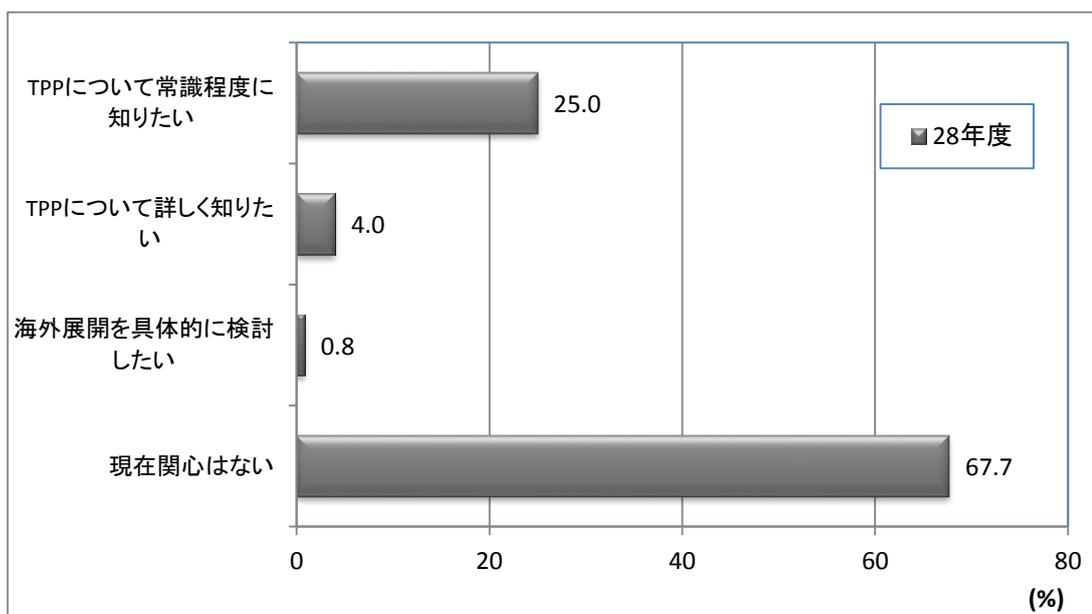
#### (4). 最近の補助金制度について

「すでに活用している」と「今後、申請予定」の合計で 21.2%となった。「説明を受けたい」が 13.4%となった。



#### (5). 大筋合意されたTPPについて

「詳しく知りたい」は4%の44先。業種別では卸売業が 13.6%、飲食・宿泊業、小売業が 5.9%で比較的高く、海外展開を検討したいが 0.8%(9先)だった。「常識程度に知りたい」「現在感心はない」合計で 92.7%だった。



(6) 商工会に期待する金融円滑化支援策について、自由にご記入ください

- ・ 補助金等の説明を聞きたい。
- ・ 補助金・助成金の事業拡大のための活用・利用方法のアドバイス、及び、わかりやすい事例の紹介。
- ・ 何でも聞きやすい（入館しやすいなど）環境であってほしい。
- ・ 商工貯蓄で借入しているが、満期の10年しないと再借入は出来ないのか。  
→商工会連合会の答え:商工貯蓄借入限度額は1口（月2千円掛金、10年、一人30口まで加入可能）500千円以内で銀行承認があれば再借入可能です。
- ・ 経営者個人の自社への貸付金を商工会や国が支援する制度を希望（経営者の消費が増大する）。
- ・ 持続化補助金で防災設備を更新し、企業存続の意欲がもてた。大変感謝。
- ・ これからも親密な指導継続を希望。
- ・ マル経資金のおかげで設備投資ができた。また、相談にのってほしい。
- ・ いつも相談にのってもらい大変感謝しています。

以上